

2010年口蹄疫発生と動物衛生研究所の防疫対応

動物衛生研究所口蹄疫対策本部¹⁾

(平成23年12月5日 受付)

Foot-and-mouth disease (FMD) outbreaks in 2010, Japan and the struggle against FMD in the National Institute of Animal Health

National Institute of Animal Health Task Force Team for the Eradication of FMD

はじめに

2010年4月に宮崎県で確認された口蹄疫は、総計292件で患畜・疑似患畜頭数計約21万頭の大発生となった。発生地である宮崎県川南町は日本でも有数の畜産密集地帯であり、我が国で初めて豚での感染も起こったことから、摘発淘汰に加えて感染拡大防止のためにワクチン接種も行われた。この発生では7月5日の最終発生をもって終息するまでの間に延べ約16万人が防疫作業に従事し、殺処分頭数も患畜・疑似患畜にワクチン接種動物を合わせて約30万頭に及ぶなど、わが国動物衛生史上未曾有の被害となった。独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）動物衛生研究所（動衛研）は緊急病性鑑定による診断、抗体検査による清浄性確認および疫学調査や委員会への参加等の防疫支援を行った。さらに、農研機構法第18条に基づく農林水産大臣要請を受けて、現地防疫作業への派遣、緊急調査、緊急研究等を実施するなど、10年前の口蹄疫に対する防疫対応を遥かに上回る協力を行った。以下、口蹄疫に対する動衛研における防疫対応について述べる。

1. 病性鑑定と発生の概要

(1) 2010年の口蹄疫病性鑑定の概要

口蹄疫の病性鑑定には感染性の材料を用いることから

高度封じ込め施設が必要であり、陽性と判定された場合には直ちに防疫措置が開始されると同時に、畜産物等の輸出停止措置等もとられることから国の参照機関でのみ確定診断を実施するとされている。わが国では東京都小平市にある動衛研国際重要伝染病研究施設の海外病特殊実験棟でのみ口蹄疫ウイルスの取り扱いが可能であり、ここで口蹄疫の病性鑑定を行うよう指定されている。

2010年に対峙した口蹄疫は日本が初めて体験する最大の家畜感染症であった。日本では2000年にも発生したが、感染実験や疫学的な分析により、当時の口蹄疫ウイルスの病原性は低いことが明らかにされ、口蹄疫ウイルスに感染させた黒毛和種牛に同居させた豚では感染が認められなかった。

2000年には口蹄疫の発生によって口蹄疫病性鑑定依頼が40件程度に上ったが、発生に伴う検査として病性鑑定に加えて、農家隔離プログラムに応じたプロバング検査および約6万検体に及ぶ血清検査を実施した。また、2001年には、BSEの国内初確認があったことからBSE臨床検査が全国規模で行われ、これに伴って11件の口蹄疫病性鑑定依頼があった。その後は2010年の発生までの間に口蹄疫病性鑑定数は年間平均1件程度であった。

2010年4月に発生した口蹄疫は終息までに3カ月を要し、7月5日の最終発生までに292件で、牛豚等あわせて感染は21万頭に及び、ワクチン接種動物を含めると約29万頭の家畜を殺処分するなど畜産史上最大の家畜の殺処分頭数となった。これら発生はほとんど宮崎県の1地域に集中していたが、口蹄疫の発生に伴い動物衛生研究所

1) 農研機構 動物衛生研究所
〒305-0856 茨城県つくば市観音台3-1-5

海外病研究施設では、宮崎県および他の都道府県からの依頼も含め OIE への口蹄疫清浄化申請の 10 月 6 日までに約 400 件の病性鑑定を受け入れ、1,500 検体に及ぶ遺伝子および抗原検査を行った（別添資料 1）。また、病性鑑定の一環として約 1,250 検体の FAO レファレンス研究所の抗体検出 ELISA（WRL LPBE）による抗体検査を実施した。病性鑑定では、緊急を要することから迅速性と感度に優れる PCR 検査を優先して実施した。ゴールデンウィーク後半からは豚での発生が相次ぎ、病性鑑定の数が増えたことから海外病研究施設における病性鑑定の対応を幾度も変更せざるを得なくなった。また、発生続発地域（川南町を中心とする児湯郡）からの検査材料は、宮崎県、農林水産省と相談の上、定期的に搬入できるようにした。続発例では写真判定の可能性についても農林水産省動物衛生課に検討を依頼していたが、病性鑑定の数は増加し続け、5 月中旬以降は PCR 検査を実施する病性鑑定班を 3 班体制にするなど 24 時間の対応が続いた。ワクチン接種した家畜では PCR 検査で陰性であるが、送られてきた当該家畜の写真では典型的な口蹄疫の症状が認められる例があった。こうした例では抗体検査を実施すべきところではあるが、既にワクチンを接種していることから WRL LPBE ではワクチン抗体との識別はできないため、6 月 1 日からワクチン接種が行われた地域に限り、写真による病性判定が導入され、明らかに口蹄疫の症状を示しているもののみ口蹄疫と判断することとされた。6 月に入り、発生件数が徐々に減少し、6 月中旬には一連の発生は収束した。7 月 5 日に移動制限解除のための血清サーベイランスにおいて、抗体陽性が 1 件摘発されたが、これが最終発生となった。

その他、動物衛生研究所で実施した検査は以下の通り。

- ・県所有種雄牛の PCR 検査、抗体検査
- ・宮崎県ワクチン接種地域外の検査（24 時間体制）
- ・宮崎県以外からの口蹄疫緊急病性鑑定
- ・ワクチン接種地域外の新たな発生場所を中心とする半径 1km 以内の PCR 検査
- ・捕獲または死亡していた野生動物の口蹄疫検査

(2) 2010 年 4 月 19 ～ 22 日の口蹄疫病性鑑定の経過

2010 年 4 月 19 日、宮崎県児湯郡都農町の黒毛和種牛飼養農家において、3 頭の牛に発熱、流涎、食欲不振および口腔内の糜爛等の口蹄疫を疑う症状が確認された。同日 23 時 30 分に、発症牛 3 頭の病変部ぬぐい液、痂皮および血液、同居牛 13 頭の血液が海外病研究施設に到着し、直ちに特殊実験棟高度封じ込め施設内に搬入され、RT-PCR、

リアルタイム RT-PCR、ウイルス分離および WRL LPBE を開始した。

翌 4 月 20 日未明、IRES および 3D 領域に対する RT-PCR および 3D 領域に対するリアルタイム RT-PCR により、発症牛 3 頭の病変部ぬぐい液および痂皮材料から口蹄疫ウイルスの遺伝子断片が検出された。さらに午後には WRL LPBE により、発症牛 2 頭の血清から口蹄疫ウイルス血清型 O に対する抗体が確認された。

同日、宮崎県児湯郡川南町の黒毛和種牛およびホルスタイン種牛飼養農家において、6 頭の牛に流涎、元気消失、口腔内および乳頭の潰瘍等の口蹄疫を疑う症状が確認された。22 時 30 分、発症牛 6 頭の病変部ぬぐい液、組織および血液、同居牛 5 頭の血液が当施設に搬入され、RT-PCR、リアルタイム RT-PCR、ウイルス分離および WRL LPBE を開始した。

4 月 21 日午前、1 例目の発症牛 1 頭の病変部ぬぐい液を接種した BK 細胞において、極微弱な CPE が確認されたため、直ちにその培養上清を用いて BK 細胞で継代およびモノクローナル抗体を用いた間接蛍光抗体法のための培養をするとともに、FAO レファレンス研究所の抗原検出 ELISA（WRL IS ELISA）、3D 領域に対するリアルタイム RT-PCR を行った。WRL IS ELISA では若干血清型 O で高い値を示したものの、陽性と判断される値には届いていなかった。夕方に行ったモノクローナル抗体を用いた間接蛍光抗体法では、口蹄疫ウイルスの全ての血清型と反応するモノクローナル抗体および血清型 O のみと反応するモノクローナル抗体で細胞変性効果を示した部分に特異蛍光が確認されたため、ウイルスの増殖を待つこととした。

一方、IRES および 3D 領域に対する RT-PCR および 3D 領域に対するリアルタイム RT-PCR により、2 例目の発症牛 6 頭の病変部ぬぐい液および組織から口蹄疫ウイルスの遺伝子断片が検出された。また、WRL LPBE により、2 例目の発症牛 1 頭の血清から血清型 O の口蹄疫ウイルスに対する抗体が確認された。

21 日には宮崎県児湯郡川南町の黒毛和種牛飼養農家で 4 頭の牛に発熱、流涎、鼻汁漏出、食欲不振および口腔内潰瘍等の口蹄疫を疑う症状が確認された。14 時 40 分、発症牛 4 頭の病変部ぬぐい液および血液、同居牛 6 頭の血液が搬入され、それらを用いて RT-PCR、リアルタイム RT-PCR およびウイルス分離を開始した。その結果、3D 領域に対する RT-PCR およびリアルタイム RT-PCR により、3 例目の発症牛 3 頭の病変部ぬぐい液から口蹄疫ウイルスの遺伝子断片が検出された。

2010年4月22日午前、1例目の培養上清を前日に継代したBK細胞において、初代より少し明瞭なCPEが観察されたこと、その培養上清を用いた3D領域に対するリアルタイムRT-PCRで前日よりウイルスの増殖が確認されたことから、その培養上清を用いてWRL IS ELISAを行ったところ午後血清型Oの口蹄疫ウイルスであることが確認された。また、2例目の発症牛の病変部ぬぐい液を接種したBK細胞において、1頭で微弱なCPEが確認されたためその培養上清を用いてWRL IS ELISAを行ったが、血清型Oで若干の高い値を示したのみで陽性とは判断できず、1例目と同様にリアルタイムRT-PCRでウイルスの増殖程度を確認し培養上清を再度BK細胞に接種した。

2. 血清サーベイランス

病性鑑定約1,250検体を除くと、抗体検査に用いた血清は移動制限地域解除のための血清サーベイランス、清浄性確認のためのサーベイランス、新たな家畜の導入のための観察牛の検査および野生動物を含めて約9,300検体であった。

発生が収束して3週間後に半径10kmの移動制限を解除するためには、目視確認による範囲内全頭の臨床検査はもとより、その期間内に統計学的に必要とされる頭数の抗体検査を行う必要がある。この検査に対してはある程度計画的に実施できるが、実施中に急遽、緊急病性鑑定が入ること、検体数が多いことから、検査は海外病研究施設以外に動物衛生研究所本所7名、動物衛生研究所北海道支所1名、動物検疫所4名、動物医薬品検査所2名の支援を得て実施された。2000年の口蹄疫発生時における抗体検査では、最も煩雑かつ時間がかかる作業が血清の整理および様々な容器からの分注であることを経験していたことから、分注容器をマルチチャンネルピペット対応の統一容器とし、主に採血は宮崎県が担当し、血清分離、分注および整理は宮崎県に近い動衛研九州支所職員が中心となり宮崎県および宮崎大学の応援を得て現場で対応した。これによって、2000年の場合と比べて抗体検査に集中できるだけでなく圧倒的に人員、時間を節約することができた。抗体検査にはWRL LPBEが用いられたが、2000年にはこのキットを使用した経験がほとんど無く、さらに、約20%に見られた非特異反応で悩まされた。WRL LPBEには各国からも非特異反応の問題が報告されていたが、海外病研究施設でWRL LPBEの条件を検討し多くの非特異反応の問題を解決していた結果、2010年の口蹄疫サーベイランス全体での非特異反応発生率は0.2%

表1. 血清サーベイランスの概要

検査日(2010年)	対象地域	検体数	検査者数(人)
1. 5月25日-29日	えびの地域	約1,550	10
2. 6月14日-7月5日	都城・日向	2,100	9
3. 7月2日-10日	西都・国富・宮崎市	2,300	8
4. 7月19日-21日	西都・国富・宮崎市	420	5
5. 9月13日-22日	観察牛・宮崎・延岡・野生動物	2,250	4
6. 10月5日-20日	観察牛・野生動物	680	4

以下であった。

血清サーベイランスの概略は表1の通りである。

3. 口蹄疫ウイルス O/JPN/2010 株の性状

(1) 血清型および遺伝子型

1例目から分離された口蹄疫ウイルス O/JPN/2010 株は、WRL IS ELISAにより血清型Oであることが確認された。病変部ぬぐい液を用いてVP1コード領域のダイレクトシーケンスを行い、公表されているVP1コード領域の塩基配列データと合わせて解析するとともに英国パーブライト研究所に当該塩基配列データを送付し、詳細な解析を行ったところ、血清型O口蹄疫ウイルスのSoutheast Asia (SEA) トポタイプの遺伝子型 Mya-98 系統に属することが確認された。

O/JPN/2010株のVP1コード領域の塩基配列は2010年に香港および韓国で分離された口蹄疫ウイルスと98.6～99.2%の相同性を示した。また、Mya-98系統の基準株であるO/MYA/7/98株とは塩基配列において93.0%、アミノ酸配列では95.8%の相同性を示した。

2010年の口蹄疫防疫に際してはわが国で初めて口蹄疫ワクチンが使用された。ワクチンの使用決定時には、ワクチン株であるO1/Manisa株は分離ウイルスと相同性が高い香港分離株に対して有効である r_1 値を示すことが判明していたが、O/JPN/2010株のO1/Manisa株に対する r_1 値を検証した。口蹄疫ウイルス不活化精製ワクチンAftopor (O1/Manisa株, メリアル製) 2mlを約6カ月齢の黒毛和種牛に筋肉内接種し、接種後3週目以降の血清を用いてO/JPN/2010株とO1/Manisa株に対する中和抗体価を測定したところ、それぞれ64倍と90倍であったことからO/JPN/2010株のO1/Manisa株に対する r_1 値は約0.7であった。

(2) O/JPN/2010 株を用いた豚に対する感染試験

一般に、口蹄疫ウイルスに感染した豚は反芻動物よりも呼気中に多くのウイルスを排出するため、養豚場口

蹄疫が発生した場合には急激に拡大する可能性がある。2010年の発生でも養豚場における確認以降、急激に件数が増大したことから、O/JPN/2010株の豚に対する病原性とウイルス排泄時期等の豚の感染経過を解析するために感染試験を実施した。

第1例目の牛から採取された痂皮検体からBK細胞により分離されたO/JPN/2010株をBHK-21細胞で2代継代したものを感染試験に用いた。海外病特殊実験棟の動物実験室内で約2カ月齢の豚2頭（豚1および2）の右前肢主蹄蹄球部に $10^{5.3}$ TCID₅₀のウイルスを接種した。また、水平伝播の有無を確認するために、ウイルス接種後1日目に豚4頭（豚3～6）をウイルス接種豚と同室に入れ、11日間飼育した。試験期間中、臨床症状の観察と血清および唾液の採取を毎日行った。

RT-PCRおよびリアルタイムRT-PCRによるウイルス遺伝子の検出を血清および唾液について行い、ウイルス分離にはIB-RS-2細胞を用いた。抗体検査にはWRL LPBEおよび中和試験を用いた。

水疱形成:ウイルス接種豚1および2ではウイルス接種後1日目から、同居豚3～6では同居後2～5日目から水疱が確認された。蹄部における水疱形成は鼻、舌および口唇における水疱形成よりも1～2日早く確認された。接種豚では、ウイルス接種後1～3日目に鼻、口唇部および蹄部に水疱が確認され、接種後1～5日目に沈鬱、食欲低下および跛行が見られた。同居豚では、同居後2～6日目に鼻、舌、口唇部および蹄部に水疱形成が確認され、同居後2～10日目に沈鬱、食欲低下および跛行が見られた。病変スコアは、接種豚で接種後3日目、同居豚では同居後4～7日目にピークに達した。

血清中のウイルス:接種豚では接種後1～3日目に血清中にウイルスが検出され、1、2日目にウイルスが分離された。同居豚では同居後1～7日目に血清中にウイルスが検出され、2～6日目にウイルスが分離された。また、同居豚3～6の血清では、水疱形成が確認される0～1日前からウイルスが検出された。

唾液中のウイルス:接種豚では、接種後1～10日目に唾液中にウイルスが検出され、1～3日目にウイルスが分離された。同居豚では、同居後1～10日目に唾液中にウイルスが検出され、1～5日目にウイルスが分離された。同居豚の唾液中からは、水疱が確認される1～4日前にウイルスが検出された。

ELISA および中和抗体価の推移:接種豚では、ELISA抗体は接種後4日目から検出され、6～10日でピークとなり最大362倍に達した。中和抗体は3日目から検出され、

試験期間中上昇し5,792倍に達した。同居豚では、ELISA抗体価は同居後5～8日目に検出され、7～10日目にピークとなり最大724倍に達した。中和抗体は3日目から検出され、試験期間中上昇し5,792倍に達した。中和抗体の出現時期はELISA抗体よりも1日早く、血清中に抗体が出現すると血清中のウイルスは速やかに消失した。

感染試験からO/JPN/2010株は豚に強い病原性を有しており、極めて早く水平伝播することが確認された。本試験で得られた成績は今後の疫学解析に活用するとともに、将来的な防疫措置の決定・改善材料として利用したい。

4. 動衛研の対応

4月20日未明の国際重要伝染病研究施設での口蹄疫陽性確認を受けて、直ちに動衛研口蹄疫対策委員会メンバーに対して電子メールによる緊急連絡を行った。当日は全国家畜衛生主任者会議開催日であったことから、最初の会合は農林水産省で行われ、宮崎県から送られた検査材料の検査判定と診断に至る事項の確認を行って今後の対応について協議した。口蹄疫対策委員会は「動衛研家畜重要疾病対策委員会設置に関する要領」に基づいて所長を委員長として設置されており、審議事項とともに検査実施体制を定めている。今回の口蹄疫では検査試料の受け入れと検査は海外病研究施設で行い、国際重要伝染病研究チームと動物疾病対策センター職員（海外病研究施設駐在）が担当し、関連業務を小平管理チームで行うこととした。農林水産省や都道府県との連絡窓口は業務推進室交流チームに一本化し、検査受け入れの調整と結果の回答等は交流チームから行うこととした。検査結果は結果判明の都度、交流チームを通して口蹄疫対策委員会メンバーに電子メールで連絡して確認を経た後に、農林水産省に連絡することとした（図1）。

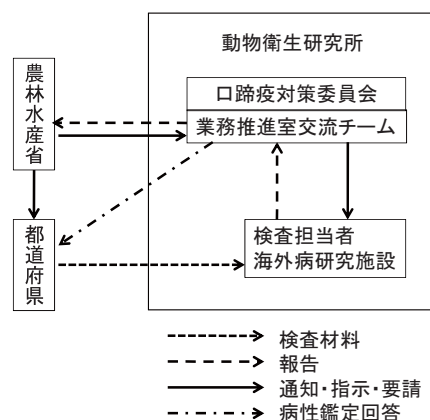


図1. 口蹄疫病性鑑定における連絡体制

報道機関をはじめ外部からの問い合わせに対しては情報広報課を窓口としたが、当初は広報対応の手順が明確でなかったこともあり情報発信に混乱も生じた。広報対応は多岐にわたり、テレビ局や新聞、雑誌社からの取材に加え、公共や民間の団体や個人からの問い合わせも相次いだことから、疫学情報室が広報対応を補佐することとした。また、職員の派遣等の業務は、事務的手続きを業務推進室運営チームが、物品購入等を管理課会計チームが、職員の健康管理等に関することを管理課庶務チームが担当するなど、動衛研の組織をフルに活用した対応を行った。

(1) 口蹄疫対策委員会

4月20日に第1回の口蹄疫対策委員会を開催した後、検査結果の審議は電子メールによって行っていたが、発生規模と防疫対応の拡大に対応して委員会メンバーに関係職員を加えたテレビ会議も実施した。開催日と主な審議事項を表2に示す。

(2) 農研機構・口蹄疫対策本部

2000年の口蹄疫発生では、家畜衛生試験場は国の機関として防疫対応を行ったが、今回は独立行政法人である

農研機構の内部研究所として対応することとなった。独立行政法人通則法および農研機構法では、動衛研の業務として研究業務に加えて病性鑑定等の行政対応を規定しているが、発生規模が拡大したことにより病性鑑定および検査業務や現地への防疫支援等に多くの職員が参加し業務量も増大することが予想された。そこで、5月19日には独法化後初めてとなる農研機構法第18条に基づく農林水産大臣要請が農研機構理事長に対して発出された。大臣要請は口蹄疫発生拡大を受けて、中期計画に基づく研究等の通常業務に対して口蹄疫防疫対応を優先させる根拠となるもので、多くの職員が積極的に協力することになった。大臣要請を受けて、農研機構には動衛研所長を本部長とする口蹄疫対策本部が設置された。対策本部には機構本部、動衛研に加えて畜産草地研究所（畜草研）および九州沖縄農業研究センターも加わり、その後の現地作業や消毒などの防疫業務に協力することになった。

(3) 職員説明会の開催

動衛研に対しては緊急病性鑑定に加えて現地派遣や様々な防疫活動への協力が要請されたことから、全職員で情報を共有し全所での対応を可能とすることを目指して説明会等を開催した（表3）。発生、防疫状況説明、協

表2. 動衛研口蹄疫対策委員会の開催状況

回数	日時（2010年）	内 容
第1回	4月20日	宮崎県における口蹄疫の確認
第2回	4月27日	緊急病性鑑定実施状況および防疫実施状況
第3回	5月6日	農林水産省の対応、発生状況、えびの地区のサーベイランスを含む今後の対応
第4回	5月11日	発生と防疫実施状況、発生現地派遣者報告
第5回	5月21日	農研機構・口蹄疫対策本部設置、ワクチン接種、えびの地区サーベイランス
第6回	6月4日	緊急調査への職員派遣

表3. 職員説明会の開催状況

回数	日時（2010年）	内 容（場 所）
緊急連絡	4月20日	口蹄疫の疑似患畜の確認とお願い
第1回	4月21日	情勢報告、質疑（講堂）
緊急連絡		防疫作業協力への申し出のお願い
情勢報告	4月23日	口蹄疫について
第2回	4月27日	情勢報告、質疑（講堂）
第3回	5月12日	情勢報告、質疑（講堂）
緊急連絡	5月20日	農林水産大臣要請について
第4回	5月26日	情勢報告、質疑（講堂）
第5回	6月11日	情勢報告、質疑（講堂）
第6回	7月1日	情勢報告、慰霊（畜霊碑前）
第7回	7月26日	情勢報告、質疑（講堂）
配信	8月12日	農林水産大臣の海外病施設視察と講話（小平）

力依頼、意見交換を目的とした全所説明会は本所講堂と支所をテレビ会議システムでつないで実施し、必要に応じてメールやグループウェアにより「緊急連絡」や「情勢報告」として配信した。4月20日の口蹄疫の確認を受けて「緊急連絡」を配信した後、翌日には全職員に対する説明会を開催した。以後の開催状況は表3に示す通りで、防疫状況の進展に合わせて計7回の全所説明会を行ったが、職員の関心は極めて高くいずれの説明会にも多くの職員が参加した。7月1日にはワクチン接種動物を含むすべての動物の殺処分完了を受けて、本所の畜霊碑前で説明会を行った後、職員代表による献花を行って犠牲となった動物を弔った。また、終息後の8月12日には山田農林水産大臣（当時）が海外病研究施設を訪問され、職員に対する労いと講話を小平からのテレビ会議システムで配信した。

5. 派遣等の支援活動

(1) 海外病研究施設における検査支援

海外病研究施設では口蹄疫確認以降、連日にわたり病性鑑定依頼が相次いだ。さらに、防疫活動の進展に伴って、清浄性確認等の検査も要請された。作業量の増大に伴って、海外病研究施設の職員のみでは多数の異なる検査を同時進行で進めることが困難と判断されたことから、動衛研本所や支所から、主に微生物検査に熟練した職員を中心に海外病研究施設での検査支援に派遣した。海外病研究施設での検査支援には農林水産省動物検疫所および同動物医薬品検査所からも職員が派遣されたが、派遣者は動衛研だけで延べ17人、62日間に達した（別添資料2）。

(2) 発生現地での防疫作業支援

口蹄疫発生と同時に宮崎県に口蹄疫対策本部が設置され、現地防疫作業は宮崎県を中心に行われていたが、防疫に関する技術的助言や現地防疫作業の支援が求められたことから九州支所および本所から職員を派遣した。その後、発生規模が拡大し殺処分が追いつかない状況になったことから、国の現地対策本部が設置されて全国の獣医師に協力が要請された。殺処分や採血、臨床検査、後にはワクチン接種等の現地での防疫作業には多くの獣医師が必要とされ、現地からの要請に基づいて農林水産省を通して動衛研に対しても相次いで派遣要請が行われた。この要請をもとに研究調整役を中心に全職員向けの協力依頼を發出し、これに応諾した職員を現地に派遣した。1回の派遣はおおむね1週間を目途とし、感染動物に接触

した場合には作業後3日間の自宅待機を含めた7日間の感受性動物への接触禁止を定めた。現地受け入れ態勢が整っていなかったこともあり、当初は男性職員の派遣のみであったが、後には女性職員も多数派遣した。現地防疫作業への派遣者は本人からの申し出に基づいて決定したが、非感染領域を含め多くの研究職員からの申し出があり、中には2回、3回と派遣される職員も出るなど、動衛研職員の国家防疫にける使命感の強さが頼もしく感じられた。また、殺処分やワクチン接種という動物に直接接触する作業では事故や怪我の危険もあることから、事前や事後に交流チーム長と頻繁に報告、連絡を交わし、現場作業での経験を次の派遣者に伝承するなど、職員の発意による態勢整備にも非常に心強いものが感じられた。

殺処分等の初動防疫措置に加えて、清浄性確認検査にも多くの人員を必要とした。清浄性確認検査は海外病研究施設で行ったが、10年前の経験を踏まえると検査を効率的に進めるためにはマルチチャンネルピペットに対応した保存容器に予め血清を移しておく必要があった。そこで、現地家畜保健衛生所での血清処理に九州支所から職員を派遣し海外病研究施設と連絡を取りながら作業を行った。九州支所からの派遣は大きな清浄性確認検査の度に交代で行った。

宮崎県への派遣は動衛研からは延べ70人、457日に及んだ（別添資料3）。動衛研以外に農研機構からは畜草研や生物系特定産業技術研究支援センターの獣医師も現地防疫作業に派遣され、九州沖縄農業研究センターからは消毒ポイントでの車両等の消毒作業等に職員が派遣された。動衛研の派遣も含め農研機構が派遣した職員は延べ115人、678日に上った。

(3) 委員会等への出席

動衛研は農林水産省食糧・農業・農村政策審議会家畜衛生部会牛豚等疾病小委員会の委員に職員が委嘱されており、この委員会で農林水産省の口蹄疫対応の審議が行われたことから職員の委員会への派遣を行った。また、口蹄疫発生直後に農林水産省に口蹄疫疫学調査チームが設置され、検討会や現地調査にも職員を派遣した。さらに、防疫作業が実施される中で、埋却地における臭気等の環境問題、飼料や排せつ物処理方法等の検討が必要とされたことから、これらの委員会や検討会にも職員を派遣した。口蹄疫終息後には、口蹄疫対策の問題点を検証し改善策を検討するために農林水産省に口蹄疫対策検証委員会が設置されたことから、この委員会にも職員を派遣することになった。これら一連の委員会等への派遣人数は延べ

49人、55日となった（別添資料4）。

動衛研の防疫対応では病性鑑定を小平の海外病研究施設で、外部との連絡調整をつくば本所で、現地対応は九州支所で行うなど分散対応を迫られたことから、農林水産省との連絡をはじめ相互の打ち合わせや会議が必要となり、会議打ち合わせに延べ22人が延べ26日にわたり参加した（別添資料4）。

6. 広報と取材対応

動衛研は家畜疾病に関する研究機関として、これに関する様々な情報をホームページで紹介しているが、口蹄疫発生直後から問い合わせが殺到した。ホームページではトピック欄に「口蹄疫について」を掲載し、口蹄疫についての技術的解説を中心に情報提供を行った。また、新聞社、テレビ・ラジオ等放送局からの口蹄疫、発生事例、口蹄疫ウイルス、検査方法、消毒、防疫対策等の様々な質問、取材、資料提供の依頼に対しては、番組への出演を含め面接や電話、メール、ファックス等により対応した。また、一般からの問い合わせ、講習会、サマーサイエンスキャンプ、見学等でも口蹄疫についての質問に多くの対応を行った。メディア対応は写真提供を含めて200件以上になり、その他を含めると問い合わせ対応件数は合計で約410件に達した（別添資料5）。

7. 緊急調査と研究

口蹄疫の防疫には疫学調査と研究が欠かせない。疫学の目的は伝染病の現在の広がり状況を客観的に評価し、感染要因を抽出して分析することで拡大の予測と拡大防止策を提示することにある。疫学研究チームでは発生直後から、地理情報や農場情報に基づいて発生状況分析や清浄性確認検査に必要な統計分析を行い、防疫対策策定のために逐次農林水産省に提供した。分析作業はしばしば深夜に及ぶこともあり、情報収集のために農林水産省や現地への職員派遣も行った。また、動衛研では緊急病性鑑定、血清サーベイランスを行うとともに、「O/JPN/2010株を用いた豚に対する感染試験」、「糞便中における口蹄疫ウイルス（O/JPN/2010株）の消長」、「防疫措置終了農場に留置された家畜排泄物等のウイルス残存性の調査」、「口蹄疫簡易検出キットの検証」、「簡易検出キットの開発」のテーマで緊急調査および研究が進められた。疫学調査や緊急研究での派遣者は延べ48人、149日に上った（別添資料6）。

「O/JPN/2010株を用いた豚に対する感染試験」および「糞便中における口蹄疫ウイルス（O/JPN/2010株）の消

長」は同時に行われた研究テーマで、国際重要伝染病研究チーム、次世代製剤開発チーム、疫学研究チームおよびウイルス病研究チームが協力して、豚に対して感染実験を行い、病原性を調べるとともに、農場内留置排泄物の主たる糞便中の口蹄疫ウイルスの残存性および適切な処置法に関する知見を得ることを目的として行われた。豚に対する病原性については前述した。また、糞便中における口蹄疫ウイルス（O/JPN/2010株）の消長では、感染実験豚の糞便中に排出される口蹄疫ウイルスに対し、3D領域を標的とするRT-PCRを行い、ウイルスの排泄を調べるとともに、正常牛および豚の糞便にO/JPN/2010株を混ぜたもの、および実験感染で得られたRT-PCR陽性豚の糞便を4℃、37℃、50℃、70℃の環境下で1日、3日、7日、14日、28日間放置した後に10%乳剤を調製し、RT-PCRを行ってウイルスの消長を調べた。その結果、O/JPN/2010株では、70℃で1日以内、50℃でも3日以内にはRT-PCRの検出感度以下まで減少したが、37℃以下の温度条件では少なくとも約1カ月程度残存することが明らかとなり、排泄物の再利用にあたっては切り返しにおける粉塵の飛散防止対策や可能な限り高い温度（50℃以上）での発酵の促進が必要であることを明らかにした。

「防疫措置終了農場に留置された家畜排泄物等のウイルス残存性の調査」では次世代製剤開発チーム、国際重要伝染病研究チーム、畜産草地研究所、宮崎大学が協力して、家畜排泄物等からの口蹄疫ウイルスの検出手法を確立するとともに、現地で採取した留置物（糞便、スラリー、浄化処理水）等からのウイルス検出を試みることで、ウイルスの残存性について検討することを目的として行われた。まず、O/JPN/2010株を含む糞便中から最も高い効率および感度でのウイルスRNA抽出法を検討し、3D領域を標的とするRT-PCR法を確立した。次にその方法を用いて発生地域内の農場で採取した留置排泄物等における口蹄疫ウイルスの残存性を検討したところ、いずれの試料においてもウイルスの残存を示す結果は得られなかった。この結果は家畜排泄物が残存する農家での飼育再開に大きく貢献した。

「口蹄疫簡易検出キットの検証」は国際重要伝染病研究チームで、イムノクロマトグラフィーの海外市販キットが我が国で口蹄疫診断に用いることができるかを検証することを目的として行われた。イムノクロマトグラフィー（Svanova社 SvanoDip FMDV-Ag）の検出感度を口蹄疫ウイルス血清型O、A、C、Asia 1に対しそれぞれ求めた結果、検出可能なウイルス量はいずれの血清型でも感染価で $10^4 \sim 10^5$ TCID₅₀ 必要であった。また、O/

JPN/2010株の10倍段階希釈した培養上清およびリアルタイムRT-PCRで陽性判定された宮崎の野外材料252検体で検証を行った結果、宮崎の野外材料での本キットの検出率は約35%であった。SvanoDip FMDV-Agは主に水疱上皮乳剤または水疱液を用いることとされているが、宮崎の発生例から、診断材料のほとんどは病変部拭い液であり、実際に現場で用いることを考慮した場合、より高い検出感度を必要とすることが判明した。

「簡易検出キットの開発」は環境・常在疾病研究チーム、ウイルス病研究チーム、岐阜大学、栄研化学株式会社が協力して、次の口蹄疫発生に備え現場での初動防疫時の混乱を避けるために、口蹄疫類似疾病について簡便な検出法を開発することを目的として行われた。口蹄疫との類症鑑別上重要な監視伝染病であるイバラキ病、ブルータング、牛ウイルス性下痢・粘膜病および牛丘疹性口炎の原因ウイルスを対象として、迅速なそれぞれの診断法としてLAMP法(Loop-mediated Isothermal Amplification method)のプライマーをそれぞれ設計するとともに、至適条件を検討し、これら口蹄疫類似4疾病の迅速かつ簡易診断法を開発した。

おわりに

わが国の畜産の歴史始まって以来、最大の被害をもたらした口蹄疫は7月5日の最終発生例防疫措置完了をもって終息し、平成23年2月には口蹄疫ワクチン非接種清浄国に復帰することができた。宮崎県のまとめではこの発生による畜産業とその関連産業の被害は約1,400億円に上り、その他商工関連産業被害を合わせると、合計で約2,350億円になると計算されている。家畜の伝染病である口蹄疫は、国内ではこれまで一般にはあまり注目されていなかったが、自衛隊員や警察官まで防疫活動に動員された今回の口蹄疫は社会から多くの注目を浴びた。日本と同時期に口蹄疫が発生した隣国韓国では一時は清浄国

復帰を果たしたものの、平成22年11月の発生では全国的な予防ワクチン接種を実施せざるを得ない状況となっている。中国や台湾、ロシア、モンゴルといった近隣諸国でも、未だに口蹄疫の発生が相次いでいる。日本における口蹄疫はアジアで流行しているウイルスの侵入によって発生した可能性が高いと考えられており、海外家畜伝染病の脅威について一般の関心が高まったことを今後の侵入防止につなげていく必要がある。また、今回の防疫活動では、畜産関係者のみならず多くの方々の協力があったことも忘れてはならない。国民の皆さんの期待に応えるためにも、二度とこうしたことが起きないように、もし起こったとしても迅速な防疫ができるような技術開発と研究強化が動衛研の使命として課せられている。今回、寝食を忘れて病性鑑定を行った海外病研究施設の皆さん、現地防疫支援や調査、研究と多岐にわたる協力をいただいた研究職員の皆さん、事務手続き等で活動を支えてくれた職員の方々に深く感謝するとともに、動衛研職員である皆さん方に宿っている動物衛生にかける崇高な意識を後代につないでいただくようお願いしたい。また、応援をいただいた動物検疫所および動物医薬品検査所の皆さんに心より感謝する。最後に、動衛研の防疫活動に対する協力に対して農林水産大臣より感謝状が贈られたことを報告して稿を終わる。

別添資料

1. 口蹄疫を疑う病性鑑定の一覧(2010年4月～11月)
2. 海外病研究施設支援(2010年5月5日～7月5日)
3. 宮崎県支援(2010年4月28日～7月18日)
4. 委員会・会議打合せ(2010年4月28日～11月24日)
5. 平成22年度口蹄疫関係問い合わせ件数(2010年4月～2011年3月)
6. 疫学調査研究(2010年4月27日～9月10日)

<別添資料1>

口蹄疫を疑う病性鑑定の一覧(2010年4月～11月)

No.	陽性例数	受付日時	飼養形態	臨床症状	検査結果					
					RT-PCR	抗原検査	抗体検査	ウイルス分離	臨床症状により判定	
1		4/18 23:30	肉繁	98頭	食欲不振, 流涎, 下顎粘膜・舌裏にび爛	-	-	-	-	
2	1例目	4/19 23:45	肉繁	15頭	発熱, 流涎, 食欲なし	+	O型	+	+	
3	2例目	4/20 22:55	乳/肉繁・肥	68頭	詳細なし	+	O型	+	+	
4	3例目	4/21 15:00	肉肥	118頭	発熱, 流涎, 鼻・口腔内潰瘍, 鼻汁, 舌先端左側び爛	+	O型		+	
5	4例目	4/21 22:30	肉繁	64頭	流涎, 右鼻腔内水疱, 潰瘍, 白色結節	+	O型	+	+	
6		4/21 22:30	肉繁	36頭	軟便, 下痢, 舌裏にび爛, 舌根部炎症	-	ND			
7	5例目	4/22 22:30	肉繁/肉肥	76頭	発熱, 右鼻腔内に白色結節, 流涎	+	O型	-	+	
8	6例目	4/22 22:30	水牛(搾乳)	水牛42頭 豚2頭	発熱, 乳量低下, 下痢, 乳房に痂皮(3/31)	+	O型	+	+	
9		4/22 20:30	肉繁	68頭	流涎, 下痢, 発熱, 口腔内び爛	-		-		
10		4/23 19:30	肉繁	56頭	流涎, 発熱, 白色結節	-	陰性	-	-	
11	7例目	4/24 20:30	肉肥	725頭	鼻及び舌のび爛, 潰瘍	+	O型	+	+	
12		4/26 16:45	肉肥	243頭	舌根部に損傷痕, 創傷様の損傷部	-		-	-	
13		4/24 8:20	肉肥	420頭	発熱, 食欲低下, 流涎, 鼻漏	-		-	-	
14	8例目	4/27 23:20	肉肥	1,019頭	流涎, 舌の水疱, 潰瘍, 鼻及び舌のび爛, 舌先端の白斑	+	O型	+	+	
15	9例目	4/27 23:20	肉肥	277頭	流涎	+	O型	+	+	
16	10例目	4/27 23:20	豚	486頭	水疱破裂, 水疱形成	+		-		
17		4/28 13:50	肉繁/肉肥	2,329頭	軽度の流涎	-		-		
18		4/28 13:50	肉繁/肉肥	61頭	白色結節, 軽度び爛, 白斑, クレータ状潰瘍	-		-		
19		4/28 21:00	搾乳/肉肥	97頭	流涎, 水疱の疑い	-		-		
20	11例目	4/28 21:00	搾乳	50頭	流涎, 白色結節, 鼻鏡の潰瘍	+	O型	-	+	
21		4/28 21:00	肉肥	148頭	鼻出血・口腔内潰瘍, 鼻汁	-		-		
22		4/29 20:00	搾乳/肉肥	140頭	流涎, 上顎に潰瘍	-		-	-	
23		4/29 22:30	肉肥	148頭	口腔内潰瘍	-		-		
24		4/29 22:30	搾乳/肉肥	97頭	流涎, 水疱	-		-		
25	12例目	4/29 22:30	豚	1,473頭	重度の鼻鏡潰瘍, び爛, 舌水疱	+		+		
26		4/29 23:30	肉繁/肉肥	233頭	食欲低下, 流涎, 舌表面に小丘疹	-		-	-	
27	13例目	4/30 22:00	豚	3,882頭	鼻鏡及び乳頭に潰瘍, 起立困難, 水疱, 発熱, 口腔内び爛	+		+		
28		4/30 22:00	搾乳/肉繁	102頭	流涎, 鼻鏡周囲に小水疱散見	-		-		
29		4/30 22:00	豚	142頭	鼻鏡(擦り傷), 鼻端に痂皮, 瘢痕	-		-		
30	14例目	5/1 19:30	豚	333頭	鼻の水疱, 舌・乳房に痂皮	+		+		
31	15例目	5/1 19:30	肉肥	425頭	流涎, 鼻鏡, 上唇にび爛, 鼻腔内痂皮	+		+		
32		5/2 18:10	豚	527頭	跛行, 左後肢蹄冠部に水疱	-		-	-	
33	16例目	5/2 21:30	肉繁	4頭	流涎, 口腔内潰瘍	+		+		
34		5/3 1:45	豚	616頭	鼻鏡に水疱	-		-	-	
35		5/3 12:00	肉肥	170頭	発熱, 口腔び爛, 泡沫状流涎, 舌に損傷痕	-		-	-	
36	17例目	5/3 13:30	肉繁/肉肥	36頭	流涎, 鼻鏡, 上唇にび爛	+		+		
37	18例目	5/3 19:30	豚	15,957頭	発熱, 鼻鏡水疱, 四肢び爛, 趾間腐爛	+		+		
38		5/3 19:30	肉繁	2頭	鼻腔内に硬い白色結節	-		-		
39	19例目	5/4 11:30	豚	3,667頭	鼻・後肢水疱	+		-		
40	20例目	5/4 23:40	豚	797頭	鼻鏡水疱, 発熱, び爛, 出血, 起立困難	+		+		
41	21例目	5/4 23:40	豚	686頭	発熱, 口腔内び爛, 起立困難, 舌潰瘍, 食欲不振	+		+		
42	22例目	5/4 23:40	豚	320頭	水疱	+		+		
43	23例目	5/4 23:40	豚	4,724頭	鼻鏡水疱, 蹄のび爛	+		+		
44		5/5 12:00	肉繁/肉肥	377頭	右後肢跛行, 発熱, 下顎の潰瘍	-		-	-	
45	24例目	5/5 19:15	豚	680頭	舌・鼻鏡水疱, 後肢にび爛, 舌歯茎潰瘍, 上歯茎口内炎	+		+		
46	25例目	5/5 19:15	豚	4,601頭	蹄の脱落, 舌の白色斑	+		-		
47	26例目	5/5 19:15	豚	1,240頭	鼻鏡の水疱・び爛, 蹄のび爛	+		+		
48	27例目	5/5 19:15	肉繁	29頭	流涎, 上顎にび爛	+		-		
49	28例目	5/5 19:15	肉繁	32頭	流涎, 白色結節, 鼻滯, 下唇内側及び舌にび爛	+		-		
50	29例目	5/5 19:15	豚	3,689頭	水疱, 起立不良, 前肢蹄冠部に潰瘍	+		-		
51	30例目	5/5 19:15	肉繁	51頭	発熱, 流涎, 口腔内び爛	+		-		
52	31例目	5/5 19:15	豚	515頭	鼻鏡の水疱・痂皮, 乳頭の小さな水疱, 蹄のび爛	+		-		
53	32例目	5/6 12:00	豚	1,255頭	鼻鏡の水疱, 蹄のび爛	+		+		
54	33例目	5/6 12:00	豚	140頭	発熱, 鼻鏡水疱, 四肢趾亜間び爛	+		-		

No.	陽性例数	受付日時	飼養形態		臨床症状	検査結果				
						RT-PCR	抗原検査	抗体検査	ウイルス分離	臨床症状により判定
55	34 例目	5/6 12:00	搾乳 / 肉肥	75頭	鼻腔内潰瘍, 舌の水疱	+		+		
56	35 例目	5/6 12:00	豚	2頭	舌・鼻鏡水疱, 前肢・後肢の蹄冠部に潰瘍	+		-		
57		5/6 22:00	豚	3,500頭	鼻鏡に水疱	-		-		
58	36 例目	5/6 22:00	肉繁	47頭	食欲低下, 流涎, 舌に潰瘍, 右鼻腔に水疱破裂痕	+		+		
59	37 例目	5/6 22:00	豚	6,104頭	鼻に大水疱, 蹄にび爛	+		+		
60	38 例目	5/6 22:00	豚	8,378頭	発熱, 鼻鏡水疱及び潰瘍, 乳頭水疱, 四肢び爛	+		+		
61	39 例目	5/6 22:00	豚	1,906頭	跛行, 蹄の水疱, び爛	+		-		
62	40 例目	5/7 13:00	肉繁	19頭	流涎, 潰瘍, び爛, 舌の発赤	+		+		
63	41 例目	5/7 13:00	肉繁	65頭	軽度の鼻汁, 鼻腔内のび爛, 発熱	+		+		
64		5/7 13:00	豚	514頭	流涎, 口唇の痂皮, 口腔内の発赤	-		-		
65	42 例目	5/7 13:00	豚	640頭	発熱, 鼻鏡・乳頭水疱, 四肢び爛	+		+		
66	43 例目	5/7 13:00	搾乳 / 肉肥	112頭	流涎, 鼻腔内・舌にび爛	+		+		
67	44 例目	5/7 23:30	豚	703頭	歩行困難, 舌に水疱, 蹄冠に潰瘍	+		-		
68	45 例目	5/7 23:30	搾乳 / 肉肥	68頭	軽度の流涎, 下顎にび爛, 舌の水疱, 鼻腔に白色水疱	+		-		
69	46 例目	5/7 23:30	搾乳	9頭	発熱, 舌水疱, 舌顎歯肉水疱, 鼻腔内微小白色結節	+		-		
70	47 例目	5/7 23:30	肉肥	牛 685頭 山羊 3頭	流涎, 鼻腔内の発赤, 鼻の潰瘍, び爛	+		-		
71		5/7 23:30	豚	174頭	下口唇に発赤・び爛, 潰瘍	-		-		
72		5/8 12:00	肥育	15頭	流涎	-		-		
73		5/8 12:00	肉肥	57頭	流涎 (泡)	-		-		
74	48 例目	5/8 12:00	肉繁 / 肉肥	207頭	流涎, 上顎・口端・舌・鼻腔内にび爛	+		+		
75		5/8 12:00	豚	900頭	発熱, 鼻の擦り傷, 蹄底の剥離	-		-		
76	49 例目	5/8 12:00	肉肥	186頭	鼻鏡・歯茎・舌のび爛	+		-		
77		5/8 21:00	肉肥	231頭	元気消失, 舌裏に小丘疹, 鼻腔内潰瘍	-		-	-	
78	50 例目	5/9 12:00	豚	1,106頭	鼻鏡・口唇の水疱, 乳房・乳頭の水疱及びび爛, 蹄の潰瘍	+		-		
79	51 例目	5/9 12:00	豚	654頭	元気消失, 発熱, 右後肢蹄冠上部より出血	+		+		
80	52 例目	5/9 12:00	肉繁	17頭	流涎, 口腔内び爛	+		-		
81	53 例目	5/9 12:00	肉肥	97頭	流涎, 鼻腔内に水疱, 舌の潰瘍, 上下口唇潰瘍	+		+		
82	54 例目	5/9 12:00	搾乳	124頭	泡沫性流涎, 舌歯茎・舌のび爛, 鼻濡	+		+		
83	55 例目	5/9 12:00	肉繁	15頭	鼻腔び爛, 流涎, 口腔内び爛	+		+		
84	56 例目	5/9 12:00	肉繁	4頭	流涎, 上顎・舌にび爛	+		-		
85	57 例目	5/9 23:30	豚	835頭	起立不良, 鼻鏡に水疱, 乳房・下口唇にび爛	+		-		
86	58 例目	5/9 23:30	肉肥	100頭	発熱, 流涎, 鼻及び口腔内び爛, 口腔底 (舌下) 水疱	+		-		
87	59 例目	5/9 23:30	肉繁	15頭	鼻腔内潰瘍, 口腔内び爛, 舌のび爛	+		+		
88	60 例目	5/9 23:30	豚	9,282頭	発熱, 鼻に大水疱, 蹄にび爛	+		-		
89		5/9 23:30	搾乳	370頭	流涎, 舌に潰瘍	-		-		
90	61 例目	5/9 23:30	肉繁	9頭	流涎, 下歯茎に発赤, 舌に大きな潰瘍, 鼻腔内水疱	+		-		
91		5/9 23:30	肉繁	55頭	発熱, 流涎, 鼻及び口腔内び爛, 舌が白色化	-		+		
92	62 例目	5/9 23:30	肉繁	15頭	泡沫性流涎, 鼻腔内の水疱, び爛	+		+		
93	63 例目	5/9 23:30	肉肥	106頭	流涎, 上顎・舌にび爛	+		-		
94	64 例目	5/9 23:30	肉繁	50頭	上唇のび爛, 舌の潰瘍	+		+		
95	65 例目	5/10 11:30	搾乳	50頭	歯床板, 乳房の水疱, 舌のび爛	+		-		
96	66 例目	5/10 11:30	肉肥	645頭	流涎, 鼻腔内に水疱, 上歯茎に潰瘍, 下口唇に潰瘍	+		-		
97	67 例目	5/10 11:30	豚	3,064頭	鼻の水疱, 舌・蹄のび爛, 潰瘍	+		+		
98	68 例目	5/10 23:30	肉肥	29頭	流涎, 発熱	+		-		
99	69 例目	5/10 23:30	肉繁	20頭	発熱, 流涎, 舌にび爛	+		-		
100	70 例目	5/10 23:30	豚	153頭	発熱, 後肢び爛, 鼻端水疱, 舌水疱	+		-		
101	71 例目	5/10 23:30	搾乳	114頭	泡沫性流涎, 舌の水疱・び爛, 鼻腔内の水疱	+		-		
102		5/11 23:30	種牛			-		-		
103	72 例目	5/11 23:30	肉繁	40頭	発熱, 泡沫性流涎, 鼻粘膜・歯肉粘膜のび爛	+		-		
104	73 例目	5/11 23:30	肉肥	288頭	流涎, 舌に潰瘍, 鼻腔内にび爛, 上歯茎に潰瘍	+		+		
105	74 例目	5/11 23:30	豚	1,127頭	舌・鼻・左後肢の水疱, 発熱	+		-		
106	75 例目	5/11 23:30	豚	163頭	口唇の水疱, 舌のび爛, 口唇及び鼻のび爛	+		+		
107	76 例目	5/11 23:30	肉繁	52頭	流涎, 鼻腔内に水疱, 上・下歯茎に潰瘍, 舌に潰瘍, び爛	+		+		

No.	陽性例数	受付日時	飼養形態		臨床症状	検査結果				
						RT-PCR	抗原検査	抗体検査	ウイルス分離	臨床症状により判定
108		5/12 20:30	肉繁	6頭	流涎	-		-		
109	77 例目	5/12 11:30	肉繁	50頭	食欲低下, 泡沫性流涎, 鼻粘膜にび爛	+		-		
110		5/12 23:30	肉繁	243頭	食欲不振, 軽度の流涎	-		-		
111	78 例目	5/12 23:30	搾乳 / 肉繁	108頭	流涎, 舌・歯肉・上唇・鼻腔内び爛	+		+		
112	79 例目	5/12 23:30	肉繁	9頭	流涎, 舌の潰瘍, 上歯茎の潰瘍, 上唇のび爛	+		-		
113	80 例目	5/12 23:30	豚	177頭	跛行, 鼻及び蹄のび爛	+		+		
114	81 例目	5/12 23:30	豚	211頭	鼻・右前肢蹄冠・乳房の水疱・び爛	+		-		
115	82 例目	5/12 23:30	豚	884頭	発熱, 乳頭水疱, 鼻鏡水疱, 前肢蹄冠部び爛	+		-		
116	83 例目	5/12 23:30	肉繁	46頭	流涎, 上顎にび爛, 舌裏に水疱	+		-		
117	84 例目	5/12 23:30	肉繁	37頭	上歯茎に潰瘍, 鼻腔内に水疱, 舌に潰瘍	+		+		
118	85 例目	5/13 11:30	肉繁	76頭	上歯茎に潰瘍, 鼻腔内に水疱	+		-		
119	86 例目	5/13 11:30	肉繁	9頭	口端・上顎・舌の大小様々なび爛, 発熱	+		-		
120		5/13 21:30	豚	(出荷頭数) 65頭	鼻鏡上部に水疱様のもの, 口内一カ所に潰瘍部	-				
121	87 例目	5/13 23:30	肉繁	26頭	粘稠性流涎, 鼻濡, 泡沫性流涎, 鼻腔内・口腔内・舌のび爛	+		+		
122	88 例目	5/13 23:30	肉繁	35頭	流涎, 舌の潰瘍, 鼻腔内に潰瘍・水疱, 舌歯茎にび爛	+		-		
123		5/13 23:30	豚	534頭	起立困難, 左後肢び爛, 右後肢着地困難, 蹄やや腫脹	-		-		
124	89 例目	5/13 23:30	肉繁	30頭	舌のび爛, 歯板上部に軽度のび爛	+		-		
125	90 例目	5/13 23:30	肉繁	13頭	鼻腔内・口腔内び爛の癒着痕化, 舌のび爛, 鼻腔内の水疱, 泡沫性流涎	+		+		
126		5/13 23:30	豚	307頭	鼻鏡に潰瘍痕・水疱痕, 鼻に発赤	-		-		
127	91 例目	5/13 23:30	肉繁	5頭	泡沫性流涎, 上唇・舌のび爛, 鼻腔内潰瘍・び爛	+		-		
128	92 例目	5/14 11:30	肉繁	30頭	発熱, 流涎, 舌・上唇・口蓋・鼻腔内び爛, 舌水疱	+		-		
129	93 例目	5/14 11:30	肉繁	32頭	流涎, 鼻粘膜・舌・下唇のび爛, 舌の潰瘍	+		-		
130		5/14 11:30	肉繁	27頭	乳頭に潰瘍状物	-		-		
131	94 例目	5/14 11:30	豚	1,115頭	鼻の水疱, 蹄・乳頭・下唇のび爛	+		-		
132		5/14 23:30	搾乳	130頭	流涎, 上唇に傷	-		-		
133		5/14 23:30	豚	4,500頭	鼻鏡に白色イボ状	-		-		
134	95 例目	5/14 23:30	搾乳 / 肉繁	147頭	発熱, 流涎, 舌水疱	+		-		
135	96 例目	5/14 23:30	肉繁	16頭	泡沫性流涎, 発熱, 顎・舌のび爛	+		-		
136	97 例目	5/14 23:30	肉繁	37頭	流涎, 鼻の潰瘍, 口腔内び爛, 舌の水疱	+		-		
137	98 例目	5/14 23:30	肉繁	8頭	舌・歯茎に丘疹, 舌・鼻腔の水疱, 口唇の潰瘍	+		-		
138	99 例目	5/14 23:30	肉繁	28頭	流涎, 舌・上唇のび爛	+		+		
139	100 例目	5/14 23:30	肉肥	508頭	泡沫性流涎, 顎・舌の激しいび爛, 発熱	+		-		
140	101 例目	5/14 23:30	肉繁	308頭		+		-		
141		5/15 23:10	肉繁	14頭	下痢, 泡沫性流涎	-		-		
142	102 例目	5/15 23:50	肉繁	52頭	泡沫性流涎, 鼻腔内・口腔内・舌のび爛	+		-		
143	103 例目	5/15 23:50	豚	1,411頭	鼻鏡に水疱・潰瘍, 乳頭に水疱, 上口唇に潰瘍	+		-		
144	104 例目	5/15 23:50	肉繁	14頭	流涎, 上顎にび爛, 舌に水疱・び爛	+		-		
145	105 例目	5/15 23:50	肉繁	15頭	発熱, 鼻粘膜・歯板上部・舌のび爛	+		+		
146	106 例目	5/15 23:50	豚	669頭	鼻鏡水疱, 前肢趾間び爛	+		+		
147	107 例目	5/15 23:50	肉繁	54頭	泡沫性流涎, 舌・口腔内のび爛, 水疱	+		-		
148	108 例目	5/15 23:50	肉繁	9頭	泡沫性流涎, 鼻・上下顎・舌のび爛	+		+		
149	109 例目	5/15 23:50	豚	1,369頭	鼻鏡に水疱, 乳房に水疱・び爛, 蹄間にび爛・潰瘍	+		+		
150	110 例目	5/15 23:50	肉繁	32頭	発熱・流涎・舌水疱	+		-		
151		5/16 11:30	肉肥	240頭	食欲低下, 流涎, 発熱	-		-		
152	111 例目	5/16 11:30	肉繁	牛 218頭 山羊 2頭	発熱, 舌の水疱・び爛, 鼻漏	+		-		
153		5/16 11:30	牛			-				
154	112 例目	5/16 11:30	肉繁	牛 62頭 山羊 2頭	泡沫性流涎, 発熱, 歯板上部・舌のび爛	+		-		
155	113 例目	5/16 11:30	肉繁	15頭	粘稠性流涎, 口腔内・鼻腔内・乳頭・口唇のび爛	+		+		
156	114 例目	5/16 11:30	肉繁	39頭	流涎, 鼻腔・上下顎のび爛	+		-		
157	115 例目	5/16 11:30	肉繁	112頭	舌の水疱	+		-		
158	116 例目	5/16 11:30	豚	1,372頭	鼻鏡に水疱, 蹄間にび爛・潰瘍, 乳房に水疱・び爛	+		+		
159		5/16 21:00	肉繁	3頭	鼻汁, 流涎	-		-		
160	117 例目	5/16 23:30	肉繁	42頭	粘稠性流涎, 口腔内・舌のび爛	+		-		
161	118 例目	5/16 23:30	豚	5,699頭	食欲低下, 鼻・乳房に水疱	+		+		

No.	陽性例数	受付日時	飼養形態		臨床症状	検査結果				
						RT-PCR	抗原検査	抗体検査	ウイルス分離	臨床症状により判定
162	119 例目	5/16 23:30	搾乳	22頭	流涎, 鼻・乳頭に水疱, 舌の潰瘍, 口唇・口蓋・歯茎のび爛	+		+		
163	120 例目	5/16 23:30	豚	809頭	発熱, 鼻鏡水疱, 右前肢蹄部出血	+		+		
164	121 例目	5/16 23:30	肉繁	36頭	泡沫性流涎, 鼻・舌の水疱	+		-		
165	122 例目	5/16 23:30	豚	8,235頭	鼻鏡に水疱, 蹄にび爛・乳房に水疱・び爛	+		+		
166	123 例目	5/16 23:30	肉繁	124頭	粘稠性流涎, 口腔内・舌裏のび爛	+		+		
167	124 例目	5/16 23:30	豚	3,260頭	発熱, 鼻鏡・乳頭の水疱, 四肢び爛・子豚死亡	+		+		
168	125 例目	5/16 23:30	豚	9,130頭	鼻の水疱, 蹄のび爛・跛行	+		+		
169		5/16 23:30	肉肥	63頭	発熱, 水疱の痕	-		-		
170	126 例目	5/16 23:30	豚	825頭	鼻・蹄冠部のび爛・舌のび爛・水疱	+		+		
171	127 例目	5/17 23:30	肉繁	41頭	流涎, 舌に水疱, 鼻腔・舌・上下顎のび爛	+		-		
172	128 例目	5/17 23:30	豚	1,714頭	鼻鏡に水疱, 下口唇・蹄に潰瘍	+		+		
173	129 例目	5/17 23:30	豚	2,160頭	鼻鏡の水疱, 蹄のび爛	+		-		
174	130 例目	5/17 23:30	肉肥	248頭	泡沫性流涎, 鼻・上唇・舌のび爛	+		-		
175	131 例目	5/17 23:30	肉繁/肉肥	牛 186頭 山羊 1頭	泡沫性流涎, 歯板上部・舌のび爛	+		-		
176	132 例目	5/17 23:30	肉繁	牛 77頭 山羊 1頭	発熱, 上下顎・舌にび爛	+		-		
177	133 例目	5/17 23:30	肉繁	53頭	流涎, 鼻腔・舌・上下唇のび爛	+		-		
178	134 例目	5/17 23:30	肉繁	17頭	泡沫性流涎, 歯板上部・舌のび爛	+		-		
179	135 例目	5/17 23:30	肉繁	93頭	粘稠性流涎, 泡沫性流涎, 口腔内・鼻腔内のび爛, 舌の水疱	+		-		
180	136 例目	5/17 23:30	肉繁	39頭	流涎, 上下顎・鼻・舌のび爛	+		+		
181	137 例目	5/17 23:30	肉繁	10頭	流涎, 鼻腔・舌・上下唇のび爛	+		-		
182	138 例目	5/17 23:30	肉肥	132頭	泡沫性流涎, 口腔内・鼻腔内・舌のび爛, 舌の水疱	+		+		
183		5/17 23:30	牛			-	ND			
184	139 例目	5/17 23:30	豚	827頭	蹄の出血・水疱, 鼻・蹄のび爛, 乳頭の水疱・び爛	+		+		
185	140 例目	5/18 23:30	豚	1,430頭	元気消失, 蹄にび爛, 鼻に水疱	+		-		
186	141 例目	5/18 23:30	肉肥	829頭	泡沫性流涎, 口腔内・鼻腔内・舌のび爛	+		+		
187	142 例目	5/18 23:30	豚	585頭	鼻・口腔内の潰瘍, 蹄の潰瘍・出血	+		-		
188		5/19 17:00	肉繁	11頭	食欲不振, 流涎	-		-	-	
189	143 例目	5/18 23:30	肉繁/肉肥	1,474頭	泡沫性流涎, 鼻・唇・舌の潰瘍	+		-		
190	144 例目	5/18 23:30	肉繁	1,316頭	流涎, 鼻腔内・上口唇・上口蓋に潰瘍	+		-		
191	145 例目	5/18 23:30	豚	1,058頭	鼻の水疱, 舌・蹄のび爛, 鼻・口腔内の水疱	+		-		
192	146 例目	5/18 23:30	肉繁/肉肥	521頭	泡沫性流涎, 口腔内・鼻腔内のび爛	+		+		
193	147 例目	5/18 23:30	肉繁	55頭	流涎, 舌・歯床板・唇び爛	+		+		
194	148 例目	5/18 23:30	肉繁	7頭	流涎, 上顎・舌にび爛	+		+		
195	149 例目	5/18 23:30	肉繁	45頭	泡沫性流涎, 上唇にび爛, 鼻・舌に水疱	+		-		
196	150 例目	5/18 23:30	肉繁	53頭	泡沫性流涎, 上歯茎にび爛, 口唇の発赤	+		-		
197	151 例目	5/18 23:30	肉繁	48頭	流涎, 鼻に水疱, 舌・上歯茎に潰瘍, 下口唇のび爛	+		+		
198	152 例目	5/18 23:30	肉繁	41頭	鼻腔・上顎・舌にび爛, 下顎に白色小結節	+		-		
199		5/19 23:30	豚	142頭	詳細なし			+		
200	153 例目	5/18 23:30	肉繁	6頭	泡沫性流涎, 鼻・上下唇のび爛, 舌の潰瘍	+		-		
201	154 例目	5/18 23:30	肉繁	16頭	流涎, 鼻腔内に潰瘍, 上歯茎にび爛	+		+		
202		5/19 23:30	肉繁	28頭	発熱, 上歯肉部に傷2つ	-		-	-	
203	155 例目	5/19 23:30	豚	2,793頭	蹄にび爛, 跛行, 起立を嫌がる	+		+		
204	156 例目	5/19 23:30	豚	312頭	鼻鏡に水疱, 蹄にび爛	+		+		
205	157 例目	5/19 23:30	肉肥	609頭	泡沫性流涎, 舌・鼻のび爛, 上顎に潰瘍	+		+		
206	158 例目	5/19 23:30	肉肥	1,441頭	流涎, 鼻腔内・舌の水疱, 舌・歯茎の発赤	+		-		
207	159 例目	5/19 23:30	豚	176頭	四肢蹄部び爛, 鼻の水疱	+		-		
208		5/21 11:00	肉繁	201頭	発熱, 上唇に水疱	-		-	-	
209		5/20 23:30	豚	2,722頭	舌の炎症, 蹄裏の外傷, 乳房の化膿, 乳頭の化膿	-		-		
210	160 例目	5/20 23:30	豚	798頭	蹄にび爛, 鼻に水疱	+		+		
211	161 例目	5/20 23:30	肉繁	238頭	泡沫性流涎, 鼻濡, 口腔内・鼻腔内・舌のび爛	+		+		
212	162 例目	5/20 23:30	肉繁	8頭	泡沫性流涎, 口腔内・舌のび爛	+		-		
213	163 例目	5/20 23:30	肉繁/肉肥	884頭	泡沫性流涎, 鼻粘膜・上唇・舌のび爛, 発熱	+		-		
214	164 例目	5/20 23:30	肉繁	3頭	流涎, 鼻腔内に水疱, 舌・上歯茎の潰瘍	+		-		
215	165 例目	5/20 23:30	肉繁	54頭	発熱, 流涎, 舌水疱	+		-		

No.	陽性例数	受付日時	飼養形態		臨床症状	検査結果				
						RT-PCR	抗原検査	抗体検査	ウイルス分離	臨床症状により判定
216	166例目	5/20 23:30	肉肥	198頭	泡沫性流涎、舌・口腔内のび爛	+		+		
217	167例目	5/20 23:30	肉繁	9頭	泡沫性流涎、口腔内のび爛、舌の水疱・び爛・潰瘍	+		-		
218	168例目	5/20 23:30	肉肥	165頭	泡沫性流涎、鼻・上下唇にび爛、舌の潰瘍	+		-		
219	169例目	5/20 23:30	肉繁	26頭	発熱、舌水疱、唇び爛	+		-		
220	170例目	5/20 23:30	肉繁/肉肥	115頭	流涎、鼻腔内・上歯茎・舌に潰瘍	+		-		
221	171例目	5/19 23:30	肉繁/肉肥	1頭		+				
222	171例目追加検査	5/20 23:30						+		
223	172例目	5/21 23:30	豚	381頭	食欲不振、起立不能、口唇・鼻のび爛、趾間のび爛出血	+		-		
224		5/21 23:30	肉繁	24頭	発熱	-		-	-	
225	173例目	5/21 23:30	肉繁	64頭	発熱、鼻腔・上唇び爛	+		-		
226	174例目	5/21 23:30	肉繁	32頭	舌・上顎・口端にび爛・軽度流涎	+		-		
227	175例目	5/21 23:30	肉繁	4頭	舌・上下唇・鼻腔にび爛、潰瘍、乳頭にび爛	+		+		
228	176例目	5/21 23:30	肉繁	67頭	食欲不振、泡沫性流涎、口腔内・鼻腔内・舌のび爛	+		+		
229	177例目	5/21 23:30	肉肥	118頭	発熱、流涎、舌・唇のび爛	+		+		
230		5/21 23:30	搾乳	41頭	流涎、発熱、食欲低下	-		-	-	
231	178例目	5/21 23:30	豚	1,873頭	蹄のび爛、鼻の水疱	+		+		
232	179例目	5/21 23:30	肉繁	24頭	流涎、鼻腔内び爛、上歯茎・舌の潰瘍	+		-		
233	180例目	5/21 23:30	肉繁	62頭	泡沫性流涎、口腔内・鼻腔内・舌のび爛及び痂痕化	+		-		
234	181例目	5/21 23:30	豚	997頭	鼻水疱・び爛、四肢蹄び爛	+		+		
235	182例目	5/22 22:50	肉繁/肉肥	286頭	泡沫性流涎、上唇・舌のび爛	+		-		
236	183例目	5/22 22:50	肉肥	252頭	軽度流涎、上顎・舌・鼻腔内にび爛	+		-		
237	184例目	5/22 22:50	肉繁/肉肥	91頭	流涎、舌の水疱・び爛、上歯茎の潰瘍	+		+		
238	185例目	5/22 22:50	肉繁	15頭	泡沫性流涎、口腔内・鼻腔内・舌のび爛、舌の水疱	+		+		
239	186例目	5/22 22:50	山羊	2頭	鼻腔のび爛	+		+		
240	187例目	5/22 22:50	肉繁	6頭	流涎、上顎・舌・鼻腔内にび爛	+		+		
241	188例目	5/22 22:50	肉肥	牛157頭 羊8頭	流涎、舌・鼻のび爛、上口唇の潰瘍	+		+		
242	189例目	5/22 22:50	豚	321頭	蹄のび爛、鼻・舌の水疱	+		-		
243	190例目	5/22 22:50	豚	355頭	発熱、鼻・四肢び爛	+		-		
244	191例目	5/22 22:50	豚	5,509頭	後肢跛行、食欲不振、鼻に水疱、蹄にび爛	+		-		
245	192例目	5/22 22:50	豚	1,210頭	鼻鏡上部水疱、乳首び爛	+		+		
246	193例目	5/22 22:50	肉繁	24頭	鼻腔内の潰瘍、舌の白斑、泡沫性流涎	+		+		
247		5/23 23:30	牛			-				
248		5/23 23:30	肉肥	922頭	発熱、下痢、食欲なし	-		-		
249	194例目	5/23 23:30	肉繁	23頭	流涎、鼻腔内・唇・口蓋び爛	+		-		
250		5/23 23:30	豚	1,600頭	蹄にび爛	-		+		
251	195例目	5/23 23:30	肉肥	441頭	泡沫性流涎、口腔内・鼻腔内・舌のび爛	+		-		
252	196例目	5/23 23:30	肉繁	3頭	流涎、舌・下顎にび爛	+		-		
253		5/23 23:30	肉繁/肉肥	216頭	鼻汁、流涎、発熱	-		-	-	
254	197例目	5/23 23:30	牛	牛53頭 豚281頭	流涎、鼻腔内・乳頭に水疱、舌び爛	+		-		
255	198例目	5/23 23:30	肉繁	18頭	流涎、舌・下口唇のび爛、上歯茎の潰瘍	+		+		
256	199例目	5/23 23:30	肉繁	26頭	泡沫性流涎、口腔内・舌のび爛	+		-		
257	200例目	5/23 23:30	肉肥	179頭	流涎、上顎・鼻腔・口端にび爛	+		+		
258		5/23 23:30	搾乳	21頭	発熱、呼吸速拍、起立困難	-		-	-	
259		5/24 23:30	牛			-				
260		5/24 23:30	肉繁	12頭	鼻腔の出血、口腔内炎症	-		-	-	
261	201例目	5/24 23:30	肉繁	24頭	泡沫性流涎、発熱、舌・鼻・上唇・歯肉にび爛	+		-		
262	202例目	5/24 23:30	肉繁	107頭	泡沫性流涎、鼻腔内・口腔内・舌のび爛	+		+		
263	203例目	5/24 23:30	肉繁	59頭	流涎、上下顎のび爛	+		-		
264	204例目	5/24 23:30	肉繁	40頭	発熱、流涎、鼻腔・唇び爛、舌・乳頭水疱	+		-		
265	205例目	5/24 23:30	豚	2,135頭	鼻鏡に水疱、蹄・乳房にび爛	+		-		
266	206例目	5/24 23:30	肉繁	9頭	泡沫性流涎、鼻腔内、口腔内のび爛、舌の水疱	+		-		
267	207例目	5/24 23:30	肉繁	14頭	鼻腔・下顎粘膜び爛、乳頭水疱	+		+		
268	208例目	5/24 23:30	肉肥	157頭	上顎・舌・鼻腔にび爛	+		+		
269	209例目	5/24 23:30	肉繁	7頭	泡沫性流涎、上下唇・舌のび爛、発熱	+		-		
270		5/25 23:30	牛			-				
271	210例目	5/25 23:30	搾乳/肉繁	96頭	泡沫性流涎、口腔内潰瘍、舌の黄変、乳頭に水疱	+		-		

No.	陽性例数	受付日時	飼養形態		臨床症状	検査結果				
						RT-PCR	抗原検査	抗体検査	ウイルス分離	臨床症状により判定
272	211 例目	5/25 23:30	肉繁	33頭	流涎, 鼻腔内・上歯茎のび爛, 舌の水疱, 上唇の潰瘍	+		+		
273	212 例目	5/25 23:30	肉繁	牛 227頭 山羊 1頭	泡沫性流涎, 口唇・口腔内・舌のび爛	+		-		
274	213 例目	5/25 23:30	豚	560頭	蹄の出血, 鼻端に水疱	+				
275	214 例目	5/25 23:30	豚	1,239頭	蹄・乳房・上唇・舌のび爛, 乳房・下顎・鼻に水疱	+				
276	215 例目	5/25 23:30	豚	80頭	鼻鏡に水疱, 四肢の蹄にび爛	+		+		
277	216 例目	5/25 23:30	肉繁	2,319頭	流涎, 上下口唇・舌にび爛	+				
278	217 例目	5/25 23:30	肉繁	25頭	流涎, 鼻腔・舌・上顎にび爛	+		-		
279	218 例目	5/25 23:30	搾乳	16頭	流涎, 舌の水疱・び爛, 舌・歯茎の潰瘍	+				
280		5/25 23:30	鹿		症状無し	-			-	
281		5/26 23:30	牛			-				
282		5/26 23:30	肉繁	124頭	流涎, 舌表面退赤色斑, 舌裏白色腫瘤	-		-	-	
283	219 例目	5/26 23:30	肉繁	15頭	流涎, 下唇・舌の潰瘍, 発熱	+		+		
284	220 例目	5/26 23:30	肉繁	10頭	泡沫性流涎, 口腔内・鼻腔内・舌び爛	+		+		
285		5/26 23:30	肉繁	19頭	下顎に傷	-		-		
286	221 例目	5/26 23:30	肉繁	21頭	泡沫性流涎, 鼻・舌に潰瘍, 鼻鏡に水疱, 舌・上歯茎・鼻腔内にび爛	+		+		
287		5/27 23:30	牛			-				
288	222 例目	5/27 23:30	豚	2,960頭	鼻鏡・乳首に水疱, 蹄周囲からの出血	+				
289		5/27 23:30	猪		症状無し	-			-	
290	223 例目	5/27 23:30	肉繁	45頭	鼻・口腔・舌のび爛, 水疱	+				
291		5/27 23:30	猪		症状無し	-				
292	224 例目	5/27 23:30	搾乳	16頭	粘稠性流涎, 口腔内・鼻腔内び爛, 舌に水疱, 乳房に水疱様物	+				
293		5/28 23:30	牛			-				
294	225 例目	5/28 23:30	豚	552頭	左後肢の蹄冠・下口唇・上口蓋・鼻鏡のび爛, 蹄の水疱	+				
295	226 例目	5/28 23:30	豚/肉繁	豚 279頭 牛 8頭	蹄冠にび爛, 鼻に水疱	+				
296	227 例目	5/28 23:30	肉繁/肉肥	4,222頭	泡沫性流涎, 鼻濡, 口腔内・鼻腔内・舌のび爛	+				
297	228 例目	5/28 23:30	肉繁	1,018頭	泡沫性流涎, 口腔・舌・鼻腔のび爛	+				
298	229 例目	5/28 23:30	肉繁/肉肥	620頭	流涎, 舌・上口蓋・下歯茎にび爛	+				
299	230 例目	5/28 23:30	肉繁	33頭	蹄冠上部の剥離, 上口蓋・鼻鏡のび爛	+				
300	231 例目	5/28 23:30	肉繁	46頭	口腔・舌・鼻腔にび爛, 泡沫性流涎	+				
301	232 例目	5/28 23:30	肉繁	48頭	泡沫性流涎, 口腔内・舌・鼻腔内のび爛, 口唇の水疱	+				
302		5/28 23:30	肉繁	1頭	流涎少, 発熱, 食欲なし	-		-		
303		5/28 23:30	ニホンカモシカ		前歯肉の傷, 角の脱落, 皮膚病	-			-	
304		5/28 23:30	肉繁/肉肥	1,491頭	泡沫性流涎, 口腔内潰瘍	-		-	-	
305		5/29 23:30	牛			-				
306	233 例目	5/29 23:30	肉肥	牛 410頭 山羊 1頭	流涎, 上下歯茎・舌のび爛	+				
307		5/29 23:30	搾乳/肉肥	152頭	流涎	-			-	
308	234 例目	5/29 23:30	肉繁	3頭	歯板上部・歯茎のび爛, 舌の水疱, 発熱	+				
309	235 例目	5/29 23:30	肉繁	876頭	軽度の流涎, 鼻腔内・唇・舌のび爛, 鼻粘膜腫脹	+				
310	236 例目	5/29 23:30	肉繁	4頭	流涎, 舌・鼻鏡・舌・歯茎にび爛, 鼻腔内水疱	+				
311	237 例目	5/29 23:30	肉繁	35頭	流涎, 鼻腔・舌・上顎・口蓋にび爛	+				
312	238 例目	5/29 23:30	肉繁	64頭	流涎, 前歯肉部・鼻粘膜び爛, 舌水疱	+				
313		5/30 23:50	搾乳	208頭	下痢, 鼻鏡・上唇・舌下にび爛, 起立不能	-		-	-	
314		5/30 23:30	牛			-				
315	239 例目	5/30 23:30	搾乳	39頭	流涎, 舌の水疱, 鼻粘膜のび爛, 発熱	+				
316	240 例目	5/30 23:30	肉繁	41頭	流涎, 鼻腔・舌・上下顎にび爛	+				
317	241 例目	5/30 23:30	肉繁	23頭	口腔内・舌・鼻腔内び爛, 泡沫性流涎	+				
318	242 例目	5/30 23:30	搾乳/肉繁	84頭	泡沫性流涎, 鼻腔内・口腔内・舌のび爛, 舌の水疱	+				
319	243 例目	5/30 23:30	肉繁	252頭	流涎, 上歯茎・舌のび爛	+				
320	244 例目	5/30 23:30	肉繁	28頭	発熱, 流涎, 鼻腔・舌水疱, 上唇び爛	+				
321	245 例目	5/30 23:30	肉繁	12頭	泡沫性流涎, 鼻粘膜・上下唇・乳頭のび爛	+				
322	246 例目	5/30 23:30	肉繁	68頭	流涎, 舌・鼻腔内・上歯茎び爛	+				
323		5/30 23:30	肉繁	26頭	粘稠性流涎, 鼻腔内・口腔内・舌のび爛	-				
324	247 例目	5/30 23:30	肉繁	13頭	発熱, 舌水疱, 舌・上歯茎・口蓋・鼻腔内にび爛	+				
325		5/31 23:30	牛			-				

No.	陽性例数	受付日時	飼養形態	臨床症状	検査結果				
					RT-PCR	抗原検査	抗体検査	ウイルス分離	臨床症状により判定
326	248 例目	5/31 23:30	豚 4,837頭	鼻鏡のび爛, 蹄のび爛	+				
327	249 例目	5/31 23:30	肉繁 5頭	上唇・舌・鼻粘膜のび爛, 流涎, 発熱	+				
328	250 例目	5/31 23:30	肉繁 43頭	流涎, 鼻腔内・上顎び爛, 口内発赤	+				
329	251 例目	5/31 23:30	肉繁 26頭	泡沫性流涎, 口腔内び爛	+				
330	252 例目	5/31 23:30	肉繁 295頭	泡沫性流涎, 鼻腔内・口腔内・舌のび爛	+				
331		5/31 23:30	豚 943頭	発熱, 乳房に黒色水疱多数	-			-	
332	253 例目	5/31 23:30	肉肥 787頭	流涎, 上下顎・舌・鼻腔にび爛	+				
333		5/31 23:55	肉肥 / 肉繁 1,427頭	水様性便治療継続中に死亡。病性鑑定時に上下唇に多数のび爛を認める	-				
334		6/1 12:10	肉肥 / 豚 牛 200頭 / 豚 100頭	泡状流涎, 食欲低下, 口内炎	-		-	-	
335		6/1 11:10	肉繁 290頭	流涎, 口腔内に潰瘍	-		-	-	
336		6/1 23:40	牛		-				
337		6/2 7:10	搾乳 77頭	硝酸塩中毒に罹患していた。流涎, 下歯茎に潰瘍	-			-	
338		6/2 23:40	牛		-				
339	254 例目		搾乳 / 肉肥 牛 55頭 / 山羊 1						○
340	255 例目		豚 842頭						○
341	256 例目		豚 2,187頭						○
342	257 例目		肉繁 / 肉肥 119頭		NT				○
343	258 例目		豚 4,832頭						○
344	259 例目		豚 793頭						○
345	260 例目		肉繁 22頭						○
346	261 例目		豚 662頭						○
347	262 例目		肉繁 86頭						○
348	263 例目		肉繁 42頭						○
349	264 例目		肉繁 6頭						○
350	265 例目	6/2 23:40	肉繁 22頭	鼻腔内水疱, 舌・下口唇のび爛	+				
351	266 例目		肉繁 70頭						○
352	267 例目		肉繁 12頭						○
353	268 例目		豚 617頭						○
354	269 例目		肉繁 80頭						○
355		6/3 0:50	搾乳 / 肉繁 270頭	軽度の流涎, 上下顎・舌下に潰瘍, 鼻鏡に丘疹	-		-	-	
356		6/3 23:40	牛		-				
357	270 例目	6/3 23:40	豚 307頭	跛行, 発熱, 右前肢・左後肢・舌び爛	+				
358		6/3 23:40	肉繁 12頭	舌にび爛	-			-	
359		6/3 23:40	鹿	下痢様便	-				
360		6/4 14:10	肉肥 309頭	元気消失, 腹臥, 起立困難, 粘稠性流涎, 鼻鏡部の痂皮形成	-		-	-	
361		6/4 21:50	牛		-		-		
362		6/4 21:50	肉肥 260頭	泡沫性流涎	-			-	
363	271 例目		肉肥 43頭						○
364	272 例目	6/4 21:50	肉繁 67頭	流涎, 舌・上歯肉・鼻腔・乳頭び爛	+				
365	273 例目		肉繁 372頭						○
366	274 例目		豚 915頭						○
367	275 例目		肉繁 25頭						○
368		6/5 19:50	肉繁 15頭	食欲不振, 発熱, 泡沫性流涎, 起立不能	-		-	-	
369		6/5 19:50	猪	鼻鏡に変色部位	-			-	
370		6/6 11:30	肉繁 12頭	泡沫性流涎, 鼻腔内発赤, 裂傷	-			-	
371	276 例目	6/7 10:50	肉繁 51頭	流涎, 唇および歯肉の腫脹, 乳頭の痂皮	+				
372		6/7 10:50	豚 595頭	水疱の破れ, 鼻に小結節	-			-	
373		6/7 11:20	肉繁 55頭	鼻鏡部に潰瘍, 潰瘍の増加	-		-	-	
374		6/8 11:20	肉繁 42頭	鼻腔内の腫瘍	-			-	
375	277 例目	6/8 11:20	豚 2,585頭	発熱, 蹄・鼻のび爛	+				
376		6/8 11:20	猪	所見なし	-			-	
377	278 例目	6/8 11:20	豚 1,332頭	鼻・蹄のび爛	+				
378	279 例目		肉肥 332頭						○
379	280 例目	6/9 23:30	肉肥 238頭	流涎, 上顎・下顎び爛, 発熱	+		+		
380	281 例目		豚 1,807頭						○
381	282 例目		豚 / 肉繁 豚 590頭 / 牛 32						○
382	283 例目	6/10 21:40	肉肥 542頭	泡沫性流涎, 口腔内・鼻腔内・舌のび爛	+		+		
383	284 例目	6/10 21:40	肉肥 364頭	流涎, ただれ, 発赤	+		+		
384	285 例目	6/10 21:40	豚 1,339頭	鼻の水疱, 蹄の水疱・出血	+		+		
385	286 例目		肉繁 73頭						○
386	287 例目		肉繁 / 肉肥 2,426頭						○

No.	陽性例数	受付日時	飼養形態	臨床症状	検査結果				
					RT-PCR	抗原検査	抗体検査	ウイルス分離	臨床症状により判定
387		6/10 21:40	牛				-		
388		6/11 23:30	肉繁 13頭	流涎, 発熱	-		-		
389		6/11 23:30	肉繁 14頭	流涎, 発熱, 鼻水, 上顎きず	-		-		
390	288 例目	6/11 23:30	豚 6,172頭	乳頭・鼻の水疱, 下顎・蹄のび爛	+				
391		6/11 23:03	肉繁/肉肥 119頭	流涎, 上嘴唇に赤色腫瘍	-			-	
392		6/13 21:30	牛・豚		-				
393		6/13 21:30	肉繁				-		
394		6/13 21:30	肉繁/肉肥 360頭	泡沫性流涎, 舌裏の出血, 発熱	-			-	
395	289 例目	6/14 11:40	肉肥 33頭	泡沫性流涎, 鼻腔・口唇・上顎・口蓋にび爛	+		-		
396		6/14 21:30	肉繁 47頭	食欲不振, 発熱	-		-		
397		6/14 21:30	肉肥 289頭	発熱, 食欲低下, 上唇に傷	-		-	-	
398		6/14 21:30	鹿	上下歯茎の出血・傷跡, 蹄組織の剥離	-			-	
399		6/14 21:30	肉繁 81頭	流涎, 鼻腔にび爛	-		-	-	
400		6/16 11:30	肉繁 32頭	糸状の流涎, 発熱, 鼻腔のび爛, 舌の痂皮	-			-	
401	290 例目	6/16 20:40	肉肥 243頭	流涎, 口腔・鼻腔にび爛, 発熱	+		+		
402		6/16 20:40	肉繁 3頭	舌裏の小水疱	-		-	-	
403		6/17 20:40	肉繁/肉肥 120頭	泡沫状流涎, 舌裏の腫瘍, 鼻腔内の発赤	-		-	-	
404	291 例目	6/18 20:20	肉肥 38頭	泡沫状流涎, 鼻腔内・口腔内・舌にび爛	+		-		
405		6/18 20:20	鹿	衰弱	-			-	
406		6/21 11:10	猪	症状無し	-			-	
407		6/21 11:10	猪	鼻・鼻鏡・右後肢の擦傷	-		-	-	
408		6/22 11:20	肉繁/肉肥 1,400頭	鼻汁, 鼻腔内に傷, 泡沫性流涎	-		-	-	
409		6/28 20:40	搾乳/肉肥/山羊 185頭 山羊 9頭	発熱, 食欲不振, 口内炎	-		-	-	
410		7/1 23:30	肉肥 300頭	食欲不振, 流涎, 発熱, 下顎に赤色腫瘍様物	-			-	
411	292 例目	7/5 11:10	肉肥 16頭	発熱, 流涎, 舌・口腔・鼻腔にび爛	+		+		
412		7/6 0:00	肉繁 61頭	微熱, 食欲減退, 流涎, 舌にび爛・潰瘍	-		-	-	
413		7/6 19:30	肉繁 33頭	鼻汁, 乳頭に水疱物突起, び爛	-		-	-	
414		7/6 11:50	鹿	上唇に傷	-			-	
415		7/12 23:30	肉肥 180頭	流涎, 発熱, 上顎・鼻腔内の傷, 下顎・下垂の腫脹	-		-	-	
416		7/12 14:10	猪	鼻から出血, その他著変なし	-			-	
417		7/20 23:30	肉肥/搾乳 104頭	流涎, 下唇内側の傷, 鼻腔内発赤, 発熱	-		-	-	
418		7/21 20:10	肉繁 6頭	鼻腔内に母指大の水疱・小白斑複数	-		-	-	
419		7/22 20:50	肉繁 37頭	口角にび爛, 口腔内内側に発赤, 下顎内癒痕, 鼻腔内に鼻冠痕	-		-	-	
420		8/6 15:20	カモシカ	著変なし	-				
421			肉繁 400頭	舌に病変, 体温 (39.0℃ ~ 39.4℃)	-		-	-	
422			肉繁 55頭	口蓋ただれ, 体温 (39.4℃)	-		-	-	
423		8/8 0:00	肉繁 17頭	食欲不振, 流涎, 舌の潰瘍・水疱	-		-	-	
424		8/16 0:00	肉肥/肉繁 450頭	食欲不振, 流涎, 口腔内潰瘍	-		-	-	
425		11/10 0:00	肉肥/肉繁 613頭	流涎, 舌に潰瘍	-		-	-	

<別添資料2>

海外病研究施設支援 (5月5日～7月5日)

	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日	5月18日
動物衛生研究所														
竹前 喜洋														
村上 賢二							○	○	○	○				
鈴木 亨													○	○
小西美佐子														
亀山健一郎	○	○	○			○	○						○	○
井関 博														
星野尾歌織														
菅野 徹		○	○	○	○	○	○	○						
動物検疫所														
尾坂 優之														
衛藤真理子														
大坪 千尋													○	○
土屋 直樹														
動物医薬品検査所														
渡辺 有美														
青木 奈緒														
合計	1	2	2	1	1	2	3	2	1	1			3	3

	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日
動物衛生研究所														
竹前 喜洋														
村上 賢二														
鈴木 亨	○	○	○				○	○	○	○	○			
小西美佐子								○	○	○			○	○
亀山健一郎							○	○	○	○	○			
井関 博						○	○	○	○	○				
星野尾歌織														
菅野 徹														
動物検疫所														
尾坂 優之													○	○
衛藤真理子							○	○	○	○	○			
大坪 千尋	○	○	○											
土屋 直樹						○	○	○	○	○				
動物医薬品検査所														
渡辺 有美														
青木 奈緒														
合計	2	2	2			2	5	6	6	6	3		2	2

	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日
動物衛生研究所														
竹前 喜洋														
村上 賢二														
鈴木 亨														
小西美佐子	○	○	○											
亀山健一郎														
井関 博														
星野尾歌織														
菅野 徹														
動物検疫所														
尾坂 優之	○	○	○											
衛藤真理子														
大坪 千尋														
土屋 直樹														
動物医薬品検査所														
渡辺 有美														
青木 奈緒														
合計	2	2	2											

※ 口蹄疫検査支援

	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日	6月29日
動物衛生研究所														
竹前 喜洋									○	○	○			
村上 賢二									○	○	○			
鈴木 亨									○	○	○			
小西美佐子														
亀山健一郎														
井関 博									○	○	○			
星野尾歌織														
菅野 徹														
動物検疫所														
尾坂 優之														
衛藤真理子									○	○	○			
大坪 千尋														
土屋 直樹										○				
動物医薬品検査所														
渡辺 有美									○	○	○			
青木 奈緒														
合 計									5	6	5			

	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日	計
動物衛生研究所							
竹前 喜洋							3
村上 賢二							4
鈴木 亨			○	○			15
小西美佐子				○	○	○	11
亀山健一郎							12
井関 博							8
星野尾歌織					○	○	2
菅野 徹							7
動物検疫所							
尾坂 優之			○	○	○	○	9
衛藤真理子				○	○		10
大坪 千尋							5
土屋 直樹							6
動物医薬品検査所							
渡辺 有美							3
青木 奈緒				○	○	○	3
合 計			2	5	5	4	98

※ 口蹄疫検査支援

<別添資料3>

宮崎県支援 (4月28日～7月18日)

	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日	5月18日	
川馬 健司																						
芝原 友幸			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小林 創太										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西田 岳史																						
辻 尚利																						
真瀬 昌司																						
八田 岳士																						
村上 賢二																						
高木 道浩																						
中村 義男																						
花房 泰子																						
大崎 慎人																				○	○	○
高松 大輔																						
上野 勇一																						
吉原 一浩		○	○	○	○	○	○	○	○	○												
下地 善弘													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
國保 健浩													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
彦野 弘一																						
宗田 吉広																						
小川 洋介																						
吉岡 耕治																						
新井 鐘蔵																						
林 智人																						
菊 佳男																						
尾澤 知美																						
秋庭 正人																						
吉岡 都																						
嶋田 伸明																						
岩田 剛敏																						
楠本 正博																						
今村 守一																						
岩丸 祥史																						
舛甚賢太郎																						
高田 益弘																						
秦 英司																						
渡部 淳																						
勝田 賢																						
安田 浩																						
山川 睦				○	○	○	○	○	○	○												
田中 省吾				○	○	○	○	○	○	○												
梁瀬 徹																						
白藤 浩明																						
加藤 友子																						
堀脇 浩孝																						
合計	3	4	4	4	3	3	3	2	3	4	3	2	2	2	3	2	5	5	4	5	5	5

※ ○ 口蹄疫防疫作業 ▲ 資材運搬

	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日	
川島 健司	○																					
芝原 友幸																						
小林 創太																						
西田 岳史																						
辻 尚利																						
真瀬 昌司																						
八田 岳士																						
村上 賢二																						
高木 道浩																						
中村 義男																						
花房 泰子																						
大崎 慎人																						
高松 大輔																						
上野 勇一																						
吉原 一浩																						
下地 善弘																						
國保 健浩																						
彦野 弘一																						
宗田 吉広																						
小川 洋介																						
吉岡 耕治																						
新井 鐘蔵																						
林 智人																						
菊 佳男																						
尾澤 知美																						
秋庭 正人																						
吉岡 都																						
嶋田 伸明																						
岩田 剛敏																						
楠本 正博																						
今村 守一																						
岩丸 祥史																						
舛甚賢太郎																						
高田 益弘																						
秦 英司																						
渡部 淳																						
勝田 賢																						
安田 浩																						
山川 陸																						
田中 省吾																						
梁瀬 徹																						
白藤 浩明																						
加藤 友子																						
堀脇 浩孝																						
合計																						

※ ○ 口蹄疫防疫作業 ▲ 資材運搬

	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日	6月29日	
川島 健司																						
芝原 友幸																						
小林 創太																						
西田 岳史																						
辻 尚利	○																					
真瀬 昌司																						
八田 岳士																						
村上 賢二																						
高木 道浩					○																	
中村 義男					○																	
花房 泰子					○																	
大崎 慎人																						
高松 大輔					○																	
上野 勇一					○																	
吉原 一浩																						
下地 善弘																						
國保 健浩																						
彦野 弘一																						
宗田 吉広																						
小川 洋介																						
吉岡 耕治																						
新井 鐘蔵																						
林 智人																						
菊 佳男	○																					
尾澤 知美																						
秋庭 正人																						
吉岡 都																						
嶋田 伸明																						
岩田 剛敏																						
楠本 正博																						
今村 守一																						
岩丸 祥史																						
舩甚賢太郎																						
高田 益弘	○																					
秦 英司																						
渡部 淳																						
勝田 賢																						
安田 浩																						
山川 陸																						
田中 省吾																						
梁瀬 徹																						
白藤 浩明																						
加藤 友子																						
堀脇 浩孝																						
合計																						

※ ○ 口蹄疫防疫作業 ▲ 資材運搬

	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日	7月6日	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日	7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日	計
川島 健司																				9
芝原 友幸																				5
小林 創太	○	○																		17
西田 岳史	○	○	○	○	○															9
辻 尚利																				8
真瀬 昌司																				8
八田 岳士																				8
村上 賢二																				9
高木 道浩																				20
中村 義男																				8
花房 泰子																				8
大崎 慎人	○	○																		18
高松 大輔																				8
上野 勇一	○	○	○	○	○															16
吉原 一浩																				10
下地 善弘																				8
國保 健浩																				8
彦野 弘一																				8
宗田 吉広																				7
小川 洋介																				8
吉岡 耕治																				8
新井 鐘蔵	○																			18
林 智人																				8
菊 佳男	○	○	○	○	○															21
尾澤 知美																				8
秋庭 正人																				16
吉岡 都																				8
嶋田 伸明																				8
岩田 剛敏																				8
楠本 正博	○	○	○	○	○															8
今村 守一																				8
岩丸 祥史																				8
舛甚賢太郎																				9
高田 益弘																				8
秦 英司	○	○	○	○	○															9
渡部 淳																				8
勝田 賢																				8
安田 浩																				2
山川 陸	○	○														○	○	○	○	24
田中 省吾	○	○														○	○	○	○	18
梁瀬 徹	○	○														○	○	○	○	14
白藤 浩明	○	○	○	○																13
加藤 友子	○	○	○	○																14
堀脇 浩孝	○	○	○	○																3
合計	13	12	7	7	4												4	4	4	457

※ ○ 口蹄疫防疫作業 ▲ 資材運搬

<別添資料4>

委員会・会議打合せ（4月28日～11月24日）

	4月28日	4月29日	4月30日		5月6日		5月18日
濱岡 隆文			⑧ 海外病研究施設				
津田 知幸	①②③ 農林水産省 宮崎農政事務所	②③ 宮崎農政事務所			① 農林水産省		① 農林水産省
磯部 尚							
石原 好仁							
栗原 輝貴							
福田 直美							
筒井 俊之	① 農林水産省				① 農林水産省		① 農林水産省
川嘉 健司							
早山 陽子							
西田 岳史	②③ 農林水産省 宮崎農政事務所	②③ 宮崎農政事務所					
室賀 紀彦							
真瀬 昌司							
坂本 研一							
今田由美子	① 農林水産省				① 農林水産省		① 農林水産省
合 計	4	2	1		3		3

※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合

⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

	5月19日	5月20日		5月27日		6月1日	
濱岡 隆文	⑧ 海外病研究施設						
津田 知幸	② 宮崎県庁 川南町・都城家保	② 宮崎県庁 川南町・都城家保				⑩ (広報業務) 海外病研究施設	
磯部 尚							
石原 好仁							
栗原 輝貴							
福田 直美							
筒井 俊之							
川嘉 健司				⑤ 農林水産省			
早山 陽子							
西田 岳史							
室賀 紀彦							
真瀬 昌司							
坂本 研一							
今田由美子							
合 計	2	1		1		1	

※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合

⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

	6月6日	6月7日		6月10日	6月13日		6月24日
濱岡 隆文							
津田 知幸	②③ えびの市 宮崎農政事務所	②③ えびの市 宮崎農政事務所			① 農林水産省		③ 農林水産省
磯部 尚							
石原 好仁							
栗原 輝貴							
福田 直美							
筒井 俊之	②③ えびの・宮崎市	②③ えびの・宮崎市			① 農林水産省		③ 農林水産省
川嘉 健司							
早山 陽子							
西田 岳史							
室賀 紀彦							
真瀬 昌司				⑤ 農林水産省			
坂本 研一							
今田由美子					① 農林水産省		
合 計	2	2		1	3		2

※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合

⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

	6月25日		6月28日		7月1日		7月13日
濱岡 隆文							
津田 知幸							⑧ 農林水産省
磯部 尚					⑧ 海外病研究施設		
石原 好仁							⑩ (検査キット運搬) 海外病研究施設
栗原 輝貴							
福田 直美							
筒井 俊之							⑧ 東京大学・ 農林水産省
川嘉 健司							
早山 陽子							⑧ 東京大学・ 農林水産省
西田 岳史							
室賀 紀彦							
真瀬 昌司	⑥ 農林水産省				⑥ 農林水産省		
坂本 研一	⑥ 農林水産省		⑩ (大臣説明) 農林水産省				
今田由美子							
合 計	2		1		2		4

※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合

⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

	7月16日	7月19日	7月20日	7月23日
濱岡 隆文				
津田 知幸		② 都城・川南地区	② 都城・川南地区	③ 農林水産省
磯部 尚				
石原 好仁				
栗原 輝貴				
福田 直美				
筒井 俊之				
川嘉 健司				
早山 陽子				⑩ (検討会傍聴) 農林水産省
西田 岳史				
室賀 紀彦				
真瀬 昌司	⑥ 農林水産省			
坂本 研一	⑥ 農林水産省			
今田由美子				
合 計	2	1	1	2

※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合

⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

	8月5日	8月12日	8月16日
濱岡 隆文		⑨ 海外病研究施設	
津田 知幸		⑨ 海外病研究施設	⑧ 海外病研究施設
磯部 尚			
石原 好仁			
栗原 輝貴		⑨ 海外病研究施設	
福田 直美		⑨ 海外病研究施設	
筒井 俊之			
川嘉 健司			
早山 陽子			
西田 岳史			
室賀 紀彦			
真瀬 昌司			
坂本 研一	④ 農林水産省		
今田由美子			
合 計	1	4	1

- ※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合
 ⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

	8月18日		8月23日	8月24日	8月25日	8月26日	8月27日
濱岡 隆文						⑧ 鹿児島県・九州支所	⑧ 鹿児島県・九州支所
津田 知幸	④ 農林水産省			① 農林水産省			
磯部 尚							
石原 好仁							
栗原 輝貴							
福田 直美					⑦ 海外病研究施設		
筒井 俊之				③ 農林水産省			
川嘉 健司							
早山 陽子							
西田 岳史							
室賀 紀彦				①③ 農林水産省			
真瀬 昌司							
坂本 研一	④ 農林水産省		⑩ (大臣説明) 農林水産省	④ 農林水産省			⑦ 動衛研本所
今田由美子				①③ 農林水産省			
合 計	2		1	5	1	1	2

※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合

⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

	8月28日	8月29日		8月31日		9月8日	
濱岡 隆文	⑩ (決起大会参加) 宮崎県市民文化 ホール						
津田 知幸	⑩ (決起大会参加) 宮崎県市民文化 ホール	⑩ (決起大会参加) 宮崎県市民文化 ホール					
磯部 尚							
石原 好仁							
栗原 輝貴							
福田 直美							
筒井 俊之							
川嘉 健司							
早山 陽子							
西田 岳史							
室賀 紀彦							
真瀬 昌司							
坂本 研一				④ 農林水産省		④ 農林水産省	
今田由美子							
合 計	2	1		1		1	

※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合

⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

	9月10日		9月15日		9月24日		9月30日
濱岡 隆文							
津田 知幸							
磯部 尚			⑧ 農林水産省				
石原 好仁							
栗原 輝貴							
福田 直美							
筒井 俊之							
川嘉 健司							
早山 陽子							
西田 岳史							
室賀 紀彦							
真瀬 昌司							
坂本 研一	④ 農林水産省		④ 農林水産省		④ 農林水産省		④ 農林水産省
今田由美子							
合 計	1		2		1		1

※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合

⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

		10月12日	10月13日		10月19日		11月1日
濱岡 隆文							
津田 知幸		③ 農林水産省					
磯部 尚							
石原 好仁							
栗原 輝貴							
福田 直美							
筒井 俊之		③ 農林水産省					
川嘉 健司							
早山 陽子							
西田 岳史							
室賀 紀彦							
真瀬 昌司							
坂本 研一			④ 農林水産省		④ 農林水産省		④ 農林水産省
今田由美子							
合 計		2	1		1		1

※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合

⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

	11月10日	11月12日	11月24日	計
濱岡 隆文				6
津田 知幸			⑩ (記者会見) 農林水産省	23
磯部 尚				2
石原 好仁				1
栗原 輝貴				1
福田 直美				2
筒井 俊之				10
川嘉 健司				1
早山 陽子				2
西田 岳史				2
室賀 紀彦				1
真瀬 昌司				4
坂本 研一	④ 農林水産省	④ 農林水産省	④ 農林水産省	20
今田由美子				5
合 計	1	1	2	80

※ ① 牛豚等疾病小委員会
 ② 口蹄疫疫学現地調査
 ③ 口蹄疫疫学調査チーム検討会
 ④ 口蹄疫対策検証委員会
 ⑤ 埋却研究チーム会合

⑥ 飼料及び排泄物等処理に係わる勉強会
 ⑦ 取材対応
 ⑧ 業務打合せ
 ⑨ 農林水産大臣来訪対応
 ⑩ その他

<別添資料5>

平成 22 年度口蹄疫関係問い合わせ件数 (2010 年 4 月～ 2011 年 3 月)

年	月	全件数	口蹄疫			
			計	マスコミ		その他
				全件	うち写真・ 資料提供依頼	
2010	4	54	39	33	11	6
	5	147	121	81	38	40
	6	110	84	34	4	50
	7	85	59	26	0	33
	8	64	34	19	0	15
	9	39	16	6	0	10
	10	41	11	3	0	8
	11	56	5	2	0	3
2011	12	64	7	5	2	2
	1	95	17	5	0	12
	2	89	16	6	1	10
	3	31	2	2	0	0
H22 年度計		875	411	222	56	189

<別添資料 6 >

疫学調査研究（4月27日～9月10日）

	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日
筒井 俊之												
川島 健司												
室賀 紀彦	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 児湯農業 改良センター	① 児湯農業 改良センター	① 児湯農業 改良センター	① 児湯農業 改良センター	① 児湯農業 改良センター	① 農林水産省	① 農林水産省	
真瀬 昌司												
亀山健一郎												
國保 健浩												
合 計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

	5月9日	5月10日	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日	5月18日	5月19日	5月20日
筒井 俊之											③ 宮崎県下	③ 宮崎県下
川島 健司												
室賀 紀彦		① 農林水産省	① 宮崎家保	① 宮崎家保	① 宮崎家保	① 宮崎家保	① 宮崎家保	① 宮崎家保	① 宮崎家保	① 宮崎家保	① 宮崎家保	① 農林水産省
真瀬 昌司												
亀山健一郎												
國保 健浩												
合 計		1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2

	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日
筒井 俊之												
川島 健司												
室賀 紀彦	① 農林水産省		① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省		① 農林水産省	① 農林水産省
真瀬 昌司												
亀山健一郎												
國保 健浩												
合 計	1		1	1	1	1	1	1	1		1	1

※ ① 技術的助言
 ② 口蹄疫ウイルス残存性調査
 ③ 現地調査・打合せ
 ④ 環境汚染調査
 ⑤ 関連実験
 ⑥ その他

	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日
筒井 俊之												
川島 健司			④ 川南町 対策本部	④ 川南町 対策本部	④ 川南町 対策本部	④ 川南町 対策本部						
室賀 紀彦	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省		① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省
真瀬 昌司												
亀山健一郎												
國保 健浩			③ 宮崎県内 発生地域	③ 宮崎県内 発生地域	③ 宮崎県内 発生地域	③ 宮崎県内 発生地域						
合 計	1	1	3	2	3	3	1	1	1	1	1	1

	6月14日	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日
筒井 俊之				③ 宮崎県庁	③ 宮崎県庁							
川島 健司												
室賀 紀彦	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省			① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省
真瀬 昌司												
亀山健一郎												
國保 健浩												
合 計	1	1	1	2	2			1	1	1	1	1

	6月26日	6月27日	6月28日	6月29日	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日	7月6日	7月7日
筒井 俊之												
川島 健司												
室賀 紀彦			① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省		① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省
真瀬 昌司												
亀山健一郎												
國保 健浩												
合 計			1	1	1	1	1		1	1	1	1

※ ① 技術的助言
② 口蹄疫ウイルス残存性調査
③ 現地調査・打合せ

④ 環境汚染調査
⑤ 関連実験
⑥ その他

	7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日	7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日
筒井 俊之												③ 宮崎県内 畜産農家
川島 健司												
室賀 紀彦	① 農林水産省	① 農林水産省			① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省		① 農林水産省	① 都城・ 川南地区
真瀬 昌司												
亀山健一郎												
國保 健浩												
合 計	1	1			1	1	1	1	1		1	2

	7月20日	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日	7月27日	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日
筒井 俊之	③ 宮崎県内 畜産農家											
川島 健司	② 宮崎家保	② 宮崎家保	② 宮崎家保	② 宮崎家保	② 宮崎家保		② 海外病 研究施設					
室賀 紀彦	① 都城・ 川南地区	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省			① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省	① 農林水産省		
真瀬 昌司	② 川南・新富・ 高鍋町	② 川南・新富・ 高鍋町	② 川南・新富・ 高鍋町	② 川南・新富・ 高鍋町	② 川南・新富・ 高鍋町							
亀山健一郎	② 宮崎家保	② 宮崎家保	② 宮崎家保	② 宮崎家保	② 宮崎家保		② 海外病 研究施設					
國保 健浩	③ 宮崎県内 発生地域	③ 宮崎県内 発生地域	③ 宮崎県内 発生地域	③ 宮崎県内 発生地域	⑥ (試料運搬) 海外病 研究施設		② 海外病 研究施設					
合 計	6	5	5	5	4		4	1	1	1		

	8月1日	8月2日	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日	8月9日	8月10日	8月11日	8月12日
筒井 俊之												
川島 健司						② 海外病 研究施設				② 海外病 研究施設		② 海外病 研究施設
室賀 紀彦												
真瀬 昌司												
亀山健一郎		② 海外病 研究施設	② 海外病 研究施設	② 海外病 研究施設	② 海外病 研究施設	② 海外病 研究施設				② 海外病 研究施設		② 海外病 研究施設
國保 健浩		⑤ 海外病 研究施設	⑤ 海外病 研究施設	⑤ 海外病 研究施設	⑤ 海外病 研究施設	⑤ 海外病 研究施設			⑤ 海外病 研究施設			⑤ 海外病 研究施設
合 計		2	2	2	2	3			1	2		3

※ ① 技術的助言
 ② 口蹄疫ウイルス残存性調査
 ③ 現地調査・打合せ
 ④ 環境汚染調査
 ⑤ 関連実験
 ⑥ その他

	8月13日	8月14日	8月15日	8月16日	8月17日	8月18日	8月19日	8月20日	8月21日	8月22日	8月23日	8月24日
筒井 俊之												
川島 健司	② 海外病 研究施設				② 海外病 研究施設			② 海外病 研究施設			② 海外病 研究施設	② 海外病 研究施設
室賀 紀彦												
真瀬 昌司												
亀山健一郎	② 海外病 研究施設										② 海外病 研究施設	② 海外病 研究施設
國保 健浩	⑤ 海外病 研究施設	⑤ 海外病 研究施設					⑤ 海外病 研究施設					
合 計	3	1			1		1	1			2	2

	8月25日	8月26日	8月27日	8月28日	8月29日	8月30日	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日
筒井 俊之												
川島 健司	② 海外病 研究施設	② 海外病 研究施設										
室賀 紀彦												
真瀬 昌司												
亀山健一郎	② 海外病 研究施設											
國保 健浩			⑤ 海外病 研究施設									
合 計	2	1	1									

	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	計
筒井 俊之						6
川島 健司						20
室賀 紀彦						79
真瀬 昌司						5
亀山健一郎						17
國保 健浩					⑤ 海外病 研究施設	22
合 計					1	149

※ ① 技術的助言
 ② 口蹄疫ウイルス残存性調査
 ③ 現地調査・打合せ
 ④ 環境汚染調査
 ⑤ 関連実験
 ⑥ その他